

## 奄美大島笠利町城前田の八月踊り歌

久万田 晋

本論文は、鹿児島県大島郡笠利町城前田（笠利1区）<sup>しろまえだ</sup>に伝わる八月踊り歌を採譜資料報告するものである。八月踊りは旧暦八月を中心として奄美大島一円に演じられている男女の歌の掛け合いによる集団太鼓輪踊り芸能であり、集落によって10数曲～40数曲の歌をレパートリーとしてもつ。城前田においては、八月踊り曲に、クズシ（後述）という付随旋律を含めて総旋律数43を数える。城前田集落における伝統的な歌としては、八月踊り歌が全てというわけではない。わらべうたや正月のホコラシャクワ<sup>(註1)</sup>のうた、シマウタ（三味線伴奏付き民謡）、テオドリ（手踊り）<sup>(註2)</sup>の歌などがある。特にシマウタは今でも盛んに歌われており、曲数の上からみても、八月踊りに拮抗する重要なジャンルである。今回はこの中の八月踊り歌に限って報告する。

城前田集落（現在笠利1区）は奄美大島北部の笠利町北東部に位置する。人口325人（1990年現在）で、隣接する笠利2区、3区と併せて、役場のある赤木名地区に次いで笠利町内第二の人口密集地である。主要産業はさとうきび、園芸作物栽培の他、大島紬の工場が地区内にあり、紬生産関係に従事する人が男女ともに多い。この為に過疎・高齢化の進行している大島他地域と比べて青年の割合が比較的多い集落である。城前田において八月踊りが行われる機会は、集落の全戸を回るヤサガシ（家探し）<sup>(註3)</sup>が行われる旧暦8月のアラセツ（初乙から3日）、シバサシ（アラセツ後の辛から3日）の他、バショオドリ（場所踊り）と称する公民館庭で踊る機会として、旧暦6月18日ロクガツドー（六月燈）前夜、旧盆の15・16日、新暦9月15日敬老会、旧暦8月15夜がある。

筆者は東京芸術大学民族音楽ゼミナールの一員として1981年から奄美諸島の民俗音楽調査に参加し、これまでに城前田八月踊りについて報告を行ってきたが（久万田1987、1990）<sup>(註4)</sup>、本論もその一環として笠利町城前田の八月踊りの旋律の局面について報告するものである。

これまでに行われた八月踊りの民俗学的・文学的研究、資料集成にはかなり<sup>(註5)</sup>のものがあるが、音楽・旋律的側面に関するものとしては、久保けんお『南日

本民謡曲集』(久保1960)、内田るり子1971、跡見女子大1981などを数えるのみである。久保の『南日本民謡曲集』は先駆的かつ現在でも奄美諸島全体を見渡す唯一の貴重な楽譜集成である。しかし八月踊り歌に関しては、採録された旋律がどこの集落のものか明記されていないこと、また旋律自体の紹介にとどまり、<sup>(註6)</sup>演奏形態の詳細が分からないなどの問題がある。内田るり子1971は八月踊りの音楽的構造を扱った先駆的な仕事で、楽譜資料作成が目的ではないが、佐仁集落の八月踊り数曲が楽譜化されている。ただ久保と同じく、実際の場における演奏形態の詳細は報告されていない。また、本来佐仁において盛んに歌われているクズシ旋律(後述)についてはここでは言及されていない。これらは八月踊り歌の研究・資料化においては重要な点であり、本論の課題とするところでもある。跡見女子大1981には宇検村芦検集落の八月踊り歌全曲の楽譜が収録されている。これは跡見女子大1982などと併せて、音楽芸能に関する民俗誌的記述は資料的に貴重であり、民俗誌的情報との統合という今後の民俗音楽芸能資料のあり方を示唆するが、演奏形態と旋律構造の関係など、採譜方法が今後吟味される必要がある。

八月踊り歌に関するこのような音楽学的資料状況は、現在南西諸島他地域でそれなりに蓄積されてきている楽譜資料化、音楽民俗誌的研究の進行と比べても、かなり貧困な状況と見なければならぬ。

ここで城前田の八月踊りのおおまかな演奏形態について述べておく。踊りの輪は、男性のウチジャシ(歌い出し)役ベテランから反時計回りにはほぼ年齢・経験順に並ぶ。男性ウチジャシ達(数名)から時計回り方向には、女性がまず太鼓役数名、ウチジャシのベテラン達と続き、後はやはり年齢・経験順に並ぶ。踊りの参加者はヤサガシでは10人程度から最大で約100人にわたるが、バショオドリでは平均して40~50人である。人数が40人程度を越えると、輪の中に子供・青年達の輪を組み、二重にする。

踊りの進行は、まず太鼓役(女性約5名程)がその曲の出だしの速さで叩き始め、男のウチジャシがゆっくり歌い、踊り始める<sup>(註7)</sup>。それに合わせて全員が踊り始め、男たちはウチジャシに歌声を合わせてゆく。後は男女の旋律一番ずつの交互唱で進行してゆく。進行と共に徐々にテンポが速くなってゆく。これを

アラシャゲルという。掛け合いにおいては男女双方のウチジャシ達が他の人々をリードし、相手の歌う歌詞に対して適切な歌詞を選び、歌ってゆく<sup>(註8)</sup>。テンポが上がると、頃合を見て、男のウチジャシが同じ踊りのままで別の旋律を歌い出す。これをクズシという<sup>(註9)</sup>。クズシは曲によっては複数続き、テンポも速くなり、盛り上がりが頂点に達したところで男のウチジャシの「トーザイ（東西）」というかけ声で一曲が終わる。曲の盛り上がり方によっては、複数あるクズシ旋律の全てが歌われないまま終わるときもある。

次に本論の目的である採譜資料提示の前に、八月踊りの旋律を記録する場合のいくつかの注意点を指摘しておく。第一に、クズシ旋律の存在である。城前田の八月踊り歌は資料1に示すごとく25種あり<sup>(註10)</sup>、その他に前述のクズシ旋律が現在筆者が確認したもので18種ある<sup>(註11)</sup>。クズシ旋律はどの曲でどういう順で連結するかがほぼ決まっている（註15参照）。資料1からわかるように、特定のクズシの組み合わせが複数の曲で用いられている。このことは何らかの旋律の伝播過程を反映していると考えられるが、ここでは考察する余裕がないので今後の課題としたい<sup>(註12)</sup>。今回は実際の奏演におけるクズシの採譜を資料2に示し、資料3にも演唱してもらったことのできたクズシ旋律についてのみ採譜を載せた。

第二に、八月踊りの奏演形態が旋律の演唱に及ぼしている影響を考慮しなければならない。城前田の八月踊り奏演形態では、男女の掛け合いにおいて相手側が旋律の最後まで歌い終わらないうちに自分側が歌い出す。そして相手側が歌い出すと、自分側は旋律の途中で歌唱をやめてしまう<sup>(註13)</sup>。そのために実際の奏演における演唱のみを採譜記録したのでは、旋律構造の全体は判明しない。そこで旋律の最後部分を確認する為に資料3を掲載した。また男女の旋律は基本的には同じだが、原則的には女性は男性より完全4度高いピッチで演唱する。旋律線の動きが男女で異なる曲も数曲あるが、詳しい音楽分析は今後の課題としたい。

また、八月踊り一曲の奏演では最初ゆっくりしたテンポで始まり、徐々にテンポを上げてゆき、終結時のテンポは開始時の3～4倍に達する。こうしたテンポの変化において、同じ旋律でも最初は細かな装飾音やコブシをつけて歌われるが、テンポが上がってくると、細かな装飾音は省略され旋律線はより単純

な形に変化する。八月踊りを歌い踊る人々は、実際の奏演におけるテンポの変化に伴った旋律線のこうした変化そのものを「ある曲の旋律」として体得している。だから後述する資料3のように、実際の奏演の場のテンポの変化と離れて踊りなしで演唱した旋律が、演唱者に規範的に認識されている旋律だと想定する一方で、実際の場での旋律線の変化の仕方その旋律の実現の仕方として人々に認識体得されていると考えなければならない。この両側面を資料2と3の比較を通じてある程度描き出せるのではないかと考えている。

次に旋律と太鼓のリズムパターンとの関係であるが、太鼓のリズム周期は踊りの周期と一致している。ただし太鼓を雨垂れ拍子的に等拍打する曲があるので、その場合は踊りの周期を太鼓のリズム周期と考える。旋律全体の総拍数は、太鼓のリズム周期とは無関係である。したがって実際の奏演では、両者は等拍リズムに基づくというだけで互いに無関係に進行し、旋律の特定の部分が太鼓・踊りの特定の部分と対応するということはない。ただし曲の開始時だけは男のウチジャンの人が歌いはじめながら、他の人々に分かりやすい動作の部分から踊りを始める。このきっかけの動作が旋律の特定の部分に対応するか否かについては、現在考察中であり、稿を改めて論じたい。

最後に本論で提示する城前田八月踊り歌資料について説明しておく。資料1「八月踊り曲目一覧」は、現在城前田において筆者が確認している八月踊り曲及びクズシ旋律を表にまとめたものである。曲名・クズシ旋律名、曲順については、基本的には城前田青年団が1985年に発行した歌集『八月踊唄 大笠利地区』<sup>(註14)</sup>に記されている表記に従った。また名前が明確には意識されていない曲については、最初に歌われる元歌(歌詞)の冒頭から便宜的につけている。この表中で、1<おぼこれ>は公民館や家々での八月踊りの場に行く、場から帰る、または移動するときの道行の歌で、振りはなく特に隊列も組まずに、三々五々歩きながら太鼓のリズムに併せて誰からともなしに男女掛け合いで歌われる。厳密には八月踊りのレパートリーというよりは、八月踊りに付随する曲といえよう。

資料2「八月踊り歌実況演唱楽譜」は、実際の奏演形態の記録としての採譜資料である。もちろん同じ曲でも演唱の度ごとにテンポ、ピッチ、歌われる歌

詞は異なってくる。複数の演唱採譜を整理統合することで、こうした演唱毎の差異を処理する記録方法も考えられるが、今回は資料3と併せることによって、規範的に認識されている旋律構造を想定しうると考え、各曲一回の演唱を選びそれを採譜記録した。今後男女の旋律や、男女演唱のピッチの相違を考察するために原則として実音表記の方法をとった。採譜のもととなった録音の録音年月日は資料2の最初に記した。また資料1からも分かる通り、特定のくずし連結は複数の曲において用いられるが、全ての曲におけるくずし展開を採譜すると、同じくずし旋律が重複出現することとなり、あまりに煩雑となる。そこで今回の採譜では、くずし旋律への展開は特定の曲で代表させ、その他の曲はくずしへの展開を省略し、歌詩6番程度までを目安として採譜記録した。

資料3「八月踊り歌演唱楽譜」は、実際の演唱においては男女の歌声の重なり、旋律末尾の省略など奏演形態からくる種々の制約によって、記録が困難な旋律の節構造を明らかにするために、八月踊りのベテランの方に踊り無しで歌だけ演唱していただいた録音の採譜記録である。演唱者の大茂甚六氏は明治42年城前田生まれで、壮年団長、老人クラブ会長を長年務められ、現在でも八月踊りのリーダー的存在として活躍されている方である。クズシを含む八月踊りの全レパートリーについての聞き取りを目的としたが、実際の奏演から離れての歌唱の要求のため、歌っていただけない曲が数曲あった。<sup>(註15)</sup>ともあれこれによって資料2では判明しなかった各旋律の末尾部分がかなり明らかになっている。注意すべき点としては、資料2からも分かる通り、曲によっては男女で旋律線が異なっており、今後同様の聞き取りを女性の歌い手からも行わなければならない。また実際の踊りの場から離れた演唱であるため、旋律のテンポ、ピッチ、細かな装飾などが実際の場で歌われる時とはかなり変わっているであろうことは充分認識しておかねばならない。さらにあくまで大茂氏個人の節回しの記録であり、他の男性であれば旋律線が部分的に異なってくる可能性はある。この点は資料2に記された旋律ヴァリエーションを参照することで、同性間の旋律線の幅をかなりの程度想定できるはずである。また実際の奏演の場では非常に聞き取りにくい幾つかのくずし旋律曲について、補助資料として他の場での演唱の採譜記録を後に加えた。

## 〔付記〕

本稿は、久万田1987における採譜資料を基として、その後継続調査で得た資料などから考え方・扱い方が変わった諸点を出来るだけ反映させることを心がけた。資料の一部に東京芸術大学民族音楽ゼミナール（現在代表：東海大学小柴はるみ教授）の調査資料を使わせていただき、また資料3の浄書作業について同ゼミメンバーで筆者の奄美調査における共同研究者でもある内田敦氏に御協力いただいたことを感謝いたします。最後に、八月踊りに関して実に多くの事をお教え下さった大茂甚六氏を始め、毎年八月踊りの場への筆者の参加を暖かく迎えて下さる城前田集落の方々に心から感謝申し上げます。

## (註)

- 1) 小正月の17・18日に子供達が友達の家などに集まった時に遊んだ手合わせ歌。ホコラシャの他にも学校唱歌などを歌って手合わせをして遊んだという。
- 2) 三味線、歌、太鼓の伴奏に合わせて、各人が自由に乱舞する。城前田には<六調>、<天草>、<那覇くわ>の三曲が伝わっている。
- 3) 現在はアラセツ・シバサシの6日間を通じて集落の約80戸を回り、各家の庭で八月踊り3曲と手踊り1曲を踊る。ちなみに1990年のアラセツ・シバサシでは、度重なる台風来襲による被害が出た為にヤサガシを中止し、バショオドリを行った。
- 4) この他に同ゼミナール参加者による奄美大島八月踊りの報告として、内田敦1990、1991が挙げられる。
- 5) 八月踊りに関する民俗誌的記述としては金久1963、恵原1979、小川1984、大石1990等、歌詞記録・集成としては文1933、池野1983、現在では最大規模の『南島歌謡大成奄美篇』（田畑他1979）等がある。その他に八月踊りの伝承曲種に関して山1973、内田るり子1989（含舞踊比較研究）、松原1988、1989、1990などがある。
- 6) 横道萬里雄の用語で、音楽の演奏に限らず、舞踊、身体運動、その場の次第などを含めた上演の形態を指す。
- 7) 太鼓が叩く前にウチジャシが歌い出すときもある。
- 8) こうした男女の掛け合いにおける歌詞の応酬をナラベという。その詳細については久万田1990を参照されたい。
- 9) 今回取り上げる城前田を含め奄美大島中北部では、一曲の半ばで付随旋律に変わり、テンポを加速度的に速くして盛り上がったところで曲が終わるという共通した様式を持っている。この付随旋律のことを城前田ではクズシというが、名称はアラシャゲ（笠利町宇宿）、ホラシ（竜郷町秋名）、クヤシ（住用村川内）など集落によって様々である。
- 10) そのうち1<おぼこれ>は道行の歌なので、踊り曲の数としては24曲である。踊りの詳細については改めて別稿で論じることにするが、この24曲の内、10<ねんごろじゅ>、12<人が嫁女>、18<港川水>の3曲は同じ踊りである。また、11<庭ぬ糸柳>と22<曲がりよ高ちじ>が同じ踊りなので、実際の踊りの種類は21種類ということになる。
- 11) 久万田1987、1990ではクズシ旋律を17種としているが、その後の調査でK18（ホコラシャ）を確認した。これはホコラシャクワ（註1）におけるのと同じ旋律である。
- 12) ちなみに（註10）で指摘した同じ踊りの3曲（10、12、22）は、K5（芦花部一

- 番) → K 6 (うんにゃだる) という同じクズシの連続が歌われる。これについては歌詞・旋律・舞踊の各局面を総合して、他集落のレパートリーと比較する作業が必要であろう。
- 13) これは奄美大島中部以北の八月踊りの特徴である。瀬戸内町や宇検村では男女旋律が重ならない奏演形態がみられる。
- 14) これは城前田(笠利一区)出身で現在笠利二区在住の日高潤郎氏が長年にわたり収集してこられた歌詞をまとめた同名歌集(日高1972)を、ほぼ同じ形で再編したものである。ただし歌詞の並び順や表記方法に異同がある。久万田1990にこの翻刻が掲載されているので参照されたい。
- 15) 日常生活において旋律だけを練習や遊びのために歌ったという場面もあったらしいが、八月踊りを長年に亘って身につけてきた地元のベテランの人々には、八月踊り各曲の踊りと歌が一体となって体得されているのである。歌詞だけ、旋律だけ、踊りだけを対象化する、演じるということは、それら各局面の統合的体験としての八月踊りにとっては特殊な経験であるといえる。クズシ旋律の連結順序などを尋ねても、多くの人から「実際にその場で踊ってみないと思い出せない。」という答が返ってくる。



## (参照文献)

## 跡見学園女子大学民俗文化研究調査会

『民俗文化』5 (鹿児島県大島郡宇検村芦検調査報告)、1981。

『民俗文化』6 (鹿児島県大島郡笠利町用調査報告)、1982。

池野 無風 『奄美島唄集成—池野無風遺稿集—』鹿児島市：道の島社、1983。

内田 敦 「奄美大島笠利町宇宿の八月踊り」『民俗芸能研究』11、1990。

「奄美大島住用村西仲間の年中行事における八月踊り」『南日本文化』23、1991に掲載予定。

内田るり子 「奄美大島笠利町佐仁の八月踊りの音楽—詞型と曲型の関係を中心として—」『南日本文化』4号、1971。(1983『奄美民謡とその周辺』所収)

『奄美民謡とその周辺』東京：雄山閣、1983。

『沖縄の歌謡と音楽』東京：第一書房、1989。

恵原 義盛 「奄美の八月踊り—その形態と発生のことども—」『まつり』34、1979。

大石 泰夫 「八月踊りの始源—奄美大和村の事例から—」『民俗芸能研究』11、1990。

小川 学夫 『「民謡の島」の生活誌』東京：PHP研究所、1984。

文英吉(潮光) 『奄美大島民謡大観』名瀬市：南島文化研究社、1933。(『奄美大島民謡大観復刻版』名瀬市：文秀人、1983。)

金久 正 『奄美に生きる古代文化』刀江書院、1963。(『増補 奄美に生きる日本古代文化』東京：至言社、1978。)

久保けんお 『南日本民謡曲集』東京：音楽之友社、1960。

久万田 晋 「奄美大島笠利町城前田の八月踊り—民俗芸能の統合的(文学・音楽・舞踊)研究を目指して—」昭和62年度東京芸術大学修士論文、1987。  
「奄美大島城前田の八月踊り—歌詞の局面を中心として—」『東京芸術大学音楽学部 紀要』第15集、1990。

山 千鶴子 「笠利町の八月踊り唄」『徳之島郷土研究会報』6、1973。

城前田青年団 『八月踊唄 大笠利地区』私家版(手書きコピー)、1985。

田畑英勝・亀井勝信・外間守善

『南島歌謡大成 V 奄美編』東京：角川書店、1979。

日高 潤郎 『八月踊唄 大笠利地区』私家版(手書き謄写版)、1972。

- 松原 武実 「住用村の八月踊りの現況と民俗音楽関係資料」『南日本文化』20、1988。  
「瀬戸内町・宇検村・大和村の八月踊資料」『南日本文化』21、1989。  
「笠利町・竜郷町・名瀬市の八月踊資料」『南日本文化』22、1990。

# 資料1 城前田八月踊り曲目一覧

- ・盛り上がった時、K4. (どんどん節) からK13. (口説) に続く場合がある。
- ・くずしに (どんどん節) と書いていない曲でも、盛り上がりによってK4. (どんどん節) に続くことがある。
- ・別称の \* は城前田青年団1985中に記された曲名。
- ・\*1については、筆者が録音調査した例が1例のみ。
- ・\*2での分母は、資料2楽譜において分子拍周期の単位としている音価。例：6/4 → 拍周期が楽譜の4分音符で6拍。
- ・\*3は、久万田1990資料1では時計回りとしているが、その後反時計回りと確認。

曲名	別称	くずし、備考	随りの拍周期 *2	随りの進行方向
1<おぼこれ>		ヤサガシで、家から家へ移動する運行の時歌う。	随無し	
2<祝つけ>		(あらしやげ) ヤサガシの各家、パシヨオドリの最初に必ず踊る	6/2→6/4	反時計回り
3<まけまけ>	*今の踊り	(東立ち震) → (那覇好き衣装買い) → (どんどん節)	6/4	時計回り
4<サンバノフエ>		(ヒヤルガフエ) → (なにかばるしよーたや) → (ヤーヨヌフエ)	10/4	反時計
5<あじそえ>		(増道長浜) → (花染め) → (エンヤレコレ) → (どんどん節)	16/4	〃
6<うらとみ>	字徳踊り	(縮すり節)	9/2	〃
7<つじこたぬうみ>		(ヒヤルガフエ) → (なにかばるしよーたや) → (ヤーヨヌフエ)	6/4	〃
8<とんばら>	*ちじゅりや	(とんばらのくずし) → (縮すり節)	6/2	〃
9<しゅんかね>	*しゅんかね	(しゅんかねくわのくずし) → (どんどん節)	14/4→15/4	〃
10<ねんごろじゅ>		(声花節一番) → (うんにゃだる)	7/4	時計
11<底ぬ糸唄>		(どんどん節)	13/4	反時計
12<人が嫁び>		(声花節一番) → (うんにゃだる) → (今の風雲)	7/2	時計
13<うりやげどり>		(エンヤレコレ) → (どんどん節)	14/4	反時計
14<赤木名刺音書>		(縮すり節)	14/2	〃
15<やんごらぬいふ>	きやーわんどまり	(縮すり節)	10/4	〃
16<喜界や清どまり>	ちくてんぐわ	(どんどん節)	16/4	〃
17<ヒヤルガヨイソレ>	なはぬあじかみ	(ヒヤルガフエ) → (なにかばるしよーたや) → (ヤーヨヌフエ)	6/2	〃
18<港川水>	*やっそれのといとい	(声花節一番) → (うんにゃだる)	7/2	時計
19<牛やだり>		(ヒヤルガフエ) → (なにかばるしよーたや) → (ヤーヨヌフエ)	14/4	反時計
20<牛やだり>		(どんどん節)	22/4	〃
21<あがむら>	まがりよ	(どんどん節)	17/4	〃 *3
22<曲がりよ高ちじ>		(どんどん節)	13/4	反時計
23<かんでく>		ナガレという順序の定まった歌詞を歌う。	16/4	〃
24<めぐりあんど>		(ねんごろじゅ) → (声花節一番) *1	18/2	時計
25<いそ踊り>		(縮すり節)	16/4	反時計

## くずし旋律一覧

- K1. (あらしやげ)
- K2. (\*\*東立ち震)
- K3. (\*\*那覇好き衣装買い)
- K4. (\*\*どんどん節)
- K5. (\*声花節一番)
- K6. (\*\*うんにゃだる)
- K7. (\*\*ヒヤルガフエ)
- K8. (\*\*なにかばるしよーたや)
- K9. (\*ヤーヨヌフエ)
- K10. (\*\*とんばらのくずし)
- K11. (\*\*縮すり節)
- K12. (\*\*しゅんかねくわのくずし)
- K13. (\*\*口説)
- K14. (\*今の風雲)
- K15. (\*\*増道長浜)
- K16. (\*花染め)
- K17. (\*エンヤレコレ)
- K18. (\*\*ホコラシヤ) (どの曲において歌われるか未確認)

\*は城前田青年団1985中に記されたくずし名。  
\*\*は、元歌(歌い出しの歌詞)などから筆者が命名したものの。

## 資料2 八月踊り歌実況演唱楽譜 目次

・演唱が1985年9月23日(7月71日目)の曲は、全演唱歌詞番号を久万田1990資料2に掲載しているので参照されたい。


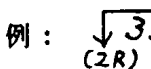
曲名	演唱日時
1 <おぼこれ> (1~2番)	1985年9月23日(7月71日目)の演唱
2 <祝つけ>	"
くずし1 K1 (あらしゃげ)	
3 <まけまけ>	1985年9月23日(7月71日目)の演唱
くずし1 K2 (東立ち雲)	
くずし2 K3 (那覇好き衣装買い)	
くずし3 K4 (どんどん節)	
4 <サンパノフェ> (1~6番)	"
5 <あじそえ>	1987年9月24日(7月72日目)の演唱
くずし1 K15 (塩道長浜)	
くずし2 K16 (花染め)	
くずし3 K17 (エンヤレコレ)	
6 <うらとみ> (1~6番)	1985年9月23日(7月71日目)の演唱
7 <つじごだぬうみ> (1~6番)	"
8 <とんばら>	"
くずし1 K10 (とんばらのくずし)	
くずし2 K11 (稲すり節)	
9 <しゅんかねくわ>	"
くずし1 K12 (しゅんかねくわのくずし)	
10 <ねんごろじゅ>	"
くずし1 K5 (芦花部一番)	
くずし2 K6 (うんにゃだる)	
11 <庭ぬ糸柳> (1~6番)	1985年9月30日(7月72日目)の演唱
12 <人が嫁女> (1~6番)	1985年9月23日(7月71日目)の演唱
13 <うりゃげどり> (1~4番)	1985年10月1日(7月73日目)の演唱
14 <赤木名観音堂> (1~6番)	1987年9月23日(7月71日目)の演唱
15 <やんごらぬいぶ>	1985年9月23日(7月71日目)の演唱
16 <喜界や湾どまり> (1~6番)	1985年9月23日(7月71日目)の演唱
17 <ヒヤルガヨイソレ>	"
くずし1 K7 (ヒヤルガフェ)	
くずし2 K8 (なかぼるしょーたや)	
くずし3 K9 (ヤーヨヌフェ)	
18 <港川水> (1~6番)	1985年10月1日(7月73日目)の演唱
19 <ヤサレノトイトイ> (1~6番)	1985年9月23日(7月71日目)の演唱
20 <牛やだり> (1~6番)	"
21 <あがむら>	"
22 <曲りょ高ちじ> (1~6番)	"
23 <かんでく> (1~8番)	1987年9月25日(7月73日目)の演唱
24 <めぐりあんど> (1~6番)	1987年10月1日(7月73日目)の演唱
25 <いそ踊り>	1987年9月24日(7月72日目)の演唱

## 楽譜凡例

## [演奏形態]

- ・旋律は、男女毎に記し、ヴァリエーション（節や演唱者による旋律変化）は、必要に応じて五線譜内、もしくはその上方に示し、節によるヴァリエーションは該当節番号を記す。
- ・各曲の踊り始めから、歌詞に通し番号をつける。常に男性側から歌い出すので、奇数番が男性、偶数番が女性となる。ある曲でくずし旋律に変わっても、その踊りが終了するまでは通し番号を続ける。
- ・歌詞の1節（1番）内での旋律反復は、Rを用いて表す。






進行例：1（男）→1 R（男）→2（女）→2 R（女）→3（男）・・・

- ・掛合において各番で相手側が入ってくる位置を  で示す（ハヤシ部分にも適用）。  
例： 2 R（女）の演唱において3（男）がここから歌い始める。
- ・各番途中の相手側ハヤシ・カケ声の挿入場所は↓で示し、該当節番号を記す。
- ・各番での演唱の中断場所は演唱歌詞部分の後に // で示す。
- ・各番冒頭でウチジャシ（打ち出し）のみが歌う部分は、該当部分歌詞を [ ] で囲む。
- ・歌詞中、演唱されなかったシラブル、または聞き取れない部分は（ ）で囲む。
- ・ある節（番）において歌われない旋律、拍部分はその節の該当歌詞部分に→を記す。

## [リズム]

- ・採譜に関して、読譜上便宜的に妥当な拍節を採用し、冒頭の五線譜上に拍子記号を記す。作譜の上で不規則拍節となる場合、その都度該当小節の上に拍子を記す。
- ・曲のテンポは、原則的に各節の冒頭部分のテンポを記録する。
- ・太鼓のリズムは、その曲における太鼓のリズムパターンを記す。等拍的連打するだけの曲の場合は、踊りの1周期分を太鼓の拍周期として記す。叩き始め部分が明確な場合は、旋律上にその部分を記す。

## [音高]

- ・記譜の音高は資料2では原則的に実音表記の方法をとる。楽譜上で常にシャープ・フラットがつく音に関しては、便宜的に調号と同様の表記を用いるが、これは特定の調性または音階・旋法を表すものではない。
- ・半音以下の音高変化は、各音符に矢印↑・↓を付す。これはその1音についてのみ有効とする。
- ・音高不確定音は、五線譜上の近似位置にXの譜頭で記す。例：
- ・連続的（おめりめり）音高移動は、音符間に実線をひく。例：
- ・コブシや細かなメリスマなど装飾音は、通常よりも小さな音符で記す。例： 
- ・裏声部分は菱型譜頭で記す。例：

# 1 <おぼこれ> (1~2番)



♩ = 63

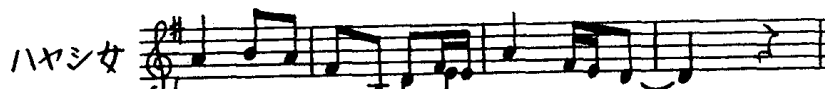


1. [おぼこ]れ じや ゆーる か ぶしーげーじや ゆーる か ぶし  
 1R. やねの い にが なーし あ ぶしーあぶしま くーらあぶし



2. [ことし]ゆ やちくーら や にがーゆーや た(ー)く(ー)ら や にが  
 2R. みちがゆ やみくーら みくーら あ(ー)がーろ みくーら

↓ 1R.



1. かぶしーげーじーや ゆーるー

↓ 2.



1. ーげーじーや ゆーるー  
 1R. ーあぶしまーくーらー

↓ 2R.



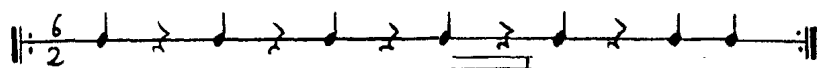
2. やねがーゆーや た(ー)くーらー

↓ 3. (略)



2. ーゆーやー た(ー)くーらー  
 2R. ーみくーら あ(ー)がーろー

2 <sup>ヨウ</sup> <祝つけ>



男  $\text{♩} = 50 \sim$

1. (こんご) のち に わ (に) に ハレ よ  
 3. (とち) あ み し ぬ や ハレ か

女  $\text{♩} = 55 \sim$

2. (に) か ら も ゆ り リ ハレ ひ

男

1. え っ け エ て お し エ ろ エ ハレ こ  
 3. ふ な ま ア ぬ や し イ が エ ハレ よ

女

2. ぎ か ら (オセ) ア も ゆ り リ イ ハレ い

男

1. ぬ か ら ぬ さ き イ ヤ ハレ お  
 3. ぬ ぐ ら や ぬ な ア (に) ハレ と

女

2. じ た ち る ま ぎ イ リ ハレ あ



男

1. よ え ば ア か リ } ヨ オ ンド (エ) ヤ レ { こ  
 3. く や こ ウ し ぬ } } よ

女

2. ら さ き オ ら さ ヨ オ ンド エ ヤ レ い

ハヤシ女

男

1. め-か- ら---ぬ-さ---き ハレこ---れ か  
3. め-ぐ- ら---や-ぬな---な (→「2.」)

ハヤシ男

(エ ヤー)ー)ー オ セ---オ セー

女

2. じ-た-ち- --- ハレ-い --- じ-た- ---

男

↓ 2.

1. ら --- ぬ

女

↓ 3.

2. ち- --- ーる

太鼓

147-248

6/4

↓ 2.

↓ 4. くすし(あらしけ)

男

3. ハレよ ねぐら や ぬな ア ちーと こやーく しれ



# くずし1 K1 (あらしやげ)



男

女

男

カケ声男

女

ハヤシサ

男

ハヤシ男

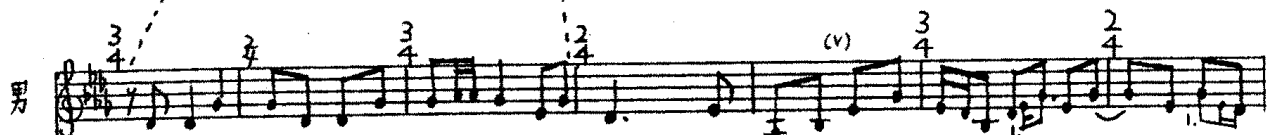
女

# 3 <まけまけ>



1. まけまけーとこねだーね

↓ 4.      ↓ 6. 8. 10. 12.



♩=40~	1.	(さんだ)	ま	け	ま	けー	と	こ	ね	だー	ね	お	ろ	せー	ソ	レ	お	ー	ろ	ー	し	ー	そ	ー	だ	ー				
♩=64~	3.	い	ま	の	お	せ	り	は	お	ど	り	こ	ー	が	そ	ろ	た	ー	ソ	レ	お	ー	ど	ー	り	ー	な	ー	ら	//
♩=68~	5.	(と)	り	は	う	と	た	か	ま	だ	よ	ー	は	よ	な	か	ー	ソ	レ	こ	ー	こ	ー	ろ	ー	し	ー	ず	が	
♩=72~	7.	(あ)	わ	ぬ	て	の	け	ば	あ	わ	そ	ー	に	す	れ	ば	ー	ソ	レ	よ	ー	る	ー	の	ー	よ	ー	が		
♩=76~	9.	→	お	し	め	で	た	や	わ	か	ま	ー	つ	ま	よ	ー	ソ	レ	え	ー	だ	ー	も	ー	さ	ー	が			
♩=80~	11.	→	な	が	い	か	た	な	は	さ	し	ー	よ	ー	が	じ	る	ー	ソ	レ	う	ー	し	ー	ろ	ー	さ	ー	が	



♩=55~	2.	あ	わ	ぬ	て	の	け	ば	あ	わ	そ	ー	に	す	ー	水	ば	よ	ー	る	ー	の	ー	よ	ー	が	
	4.	か	な	は	い	く	つ	か	に	じ	に	ー	か	さ	ー	み	か	い	ー	つ	ー	も	ー	か	ー	わ	
	6.	(ふ	ね	の)	お	も	て	に	め	わ	ら	ぶ	ー	ば	の	ー	せ	か	お	ー	も	ー	い	ー	ね	ー	せ
	8.	と	り	は	う	と	た	か	ま	だ	よ	ー	は	よ	ー	な	か	こ	ー	こ	ー	ろ	ー	し	ー	ず	
	10.	な	ん	ほ	ほ	れ	て	も	お	に	わ	ー	の	そ	ー	て	か	ー	き	ー	の	ー	そ	ー	と	が	
	12.	な	み	と	は	な	せ	ば	ま	くら	ー	も	い	ー	ら	ぬ	た	ー	が	ー	い	ー	ち	ー	が		

↓ 2.



1. て エてヤレヤせ さーかなせキラサ //

5. か アに //

8. ら アす //

9. え エる //

11. 水 エば //



2. らーすヤレなきわ //

4. らーぬヤレにじに ーかーせキラサ //

6. きーにヤレかじとー //

8. かーにヤレ //

10. かーらヤレみた は //

12. いーのヤレうで まくら //

くずし1 K2 (東立ち雲)

15R  
13R. (カ) なと  
15. (シ) しち  
15R. いつが

16. (15R)  
14. (13R)

男

♩ = 96 ~  
♩ = 124 ~

13. あがれたちぐもやいきわかれみれはーハレ  
13R. (カ) なと いさわかれうーれがマ タジとーに //  
15. (シ) しち ほちごろやゆぬくれどまちーる ヤーハレ  
15R. いつが よぬく水てわーじーゆマ タなりーる ヤーハレ //

17. く乳 (那覇好き花枝買)

女

♩ = 96 ~  
♩ = 138 ~

14. うがみばとしりーる うーがーまだなしりーめ ヤーハレ  
14R. うがでしちからどこーえーヤマ タおせーろ //  
16. かみぎらさてりーる おーじーぎヤ のおっーき ヤーハレ  
16R. かなが じにた たば くーもーてマ タ //

ハヤシ 女

♩ = 96 ~

13. ヤハレいきーわかれみれはー  
15. ヤハレよぬーくれどまちーる

男

♩ = 96 ~

13. いきーわかれみれはー  
15. ゆぬーくれどまちーる

ハヤシ 男

♩ = 96 ~

14. ヤハレうがーまだなしりーめ  
16. ヤハレおじーぎヤ のおっーき

女

♩ = 96 ~

14. うがーまだなしりーめ  
16. おじーぎヤ のおっーき

ナ - ス イ ヲ オ  
 ぐずし 2 K 3 (那覇好き衣装買い)

男  $\text{♩} = 152 \sim$  17. な か ば る し や - な - ず き い し か い な い し - や な - ず き

女  $\text{♩} = 156 \sim$  18. お な ぐ み - ぬ あ わ れ (-) い - と や な ぎ - こ - こ - (- ぞ)

男  $\text{♩} = 152 \sim$  17. む し ぬ - な - せ れ よ - し (て) ヤ ウ マ レ ン ジョ - ラ イ ショ - ナ

女  $\text{♩} = 156 \sim$  18. ろ か せ - の お - せ い ま ま - な - び こ し の - き //

19. ぐずし (七ん七ん節)

グツ  
 ぐずし 3 K 4 (どんどん節)

男  $\text{♩} = 158 \sim$  19. た ね お ろ し ち - も ち も - れ が き - お て ナ - も ち ぐ

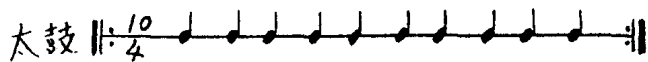
女  $\text{♩} = 165 \sim$  20. ま け ま け - ど こ ね - た ね お ろ せ ナ お ろ し

男  $\text{♩} = 158 \sim$  19. く れ た ば れ - - い わ て お し ろ ハ ラ //

女  $\text{♩} = 165 \sim$  20. せ だ - て て - - や せ さ //

男「東西、東西～」踊り終了

# <サンバノフェ> (1~6番)



男

1. (さんだ) ま け ま - け じこね - た ね - - おろ せ おろせ そ  
 3. [おろ] し - め で た - や わか - ま つ - - さま よ え だ も さ  
 5. [いま] の - おど り - は おど り こ が - - そろ た おど り な

女

2. [さまは] - いく つ - か にじ - に か - - さみ か い つ も か  
 4. [なんほ] - ほれ て (-) も おに - わ の - - そて っ か き の そ  
 6. [さまは] - いく つ (-) か にじ - に か - - さみ か い つ も か

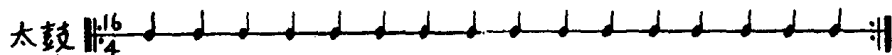
男

1. だ - て て ン } ヨ ハレ { や せ - - さ か な - コレ  
 3. か - え る ン } は も - //  
 5. ら - わ ば ン } //

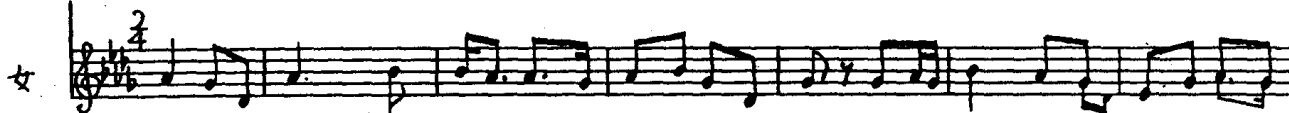
女

2. わ - ら ぬ ン } ヨ ハレ に じ - - に さ み - ヨ レ サ ン バ ノ フェ  
 4. し - か ら ン } //  
 6. わ - ら ぬ ン } //

# 5 <あじそえ>



♩=40~ 1. あじそ — えの(ー)みふねやよ } ハレ — {と な — か — —  
 ♩=65~ 3. あ の — は — ま に — つけろかや } {べ る — は — —  
 ♩=72~ 5. て ス — た つ み つ よ つ — い つ ん ぶ つ } {な な — つ — —



♩=60~ 2. し く — の — く — ぬ — う り て き り } ハレ — {さ て — く — —  
 ♩=68~ 4. あ ら — し — げ — に — し げ に — ヨ } {わ う — た — —  
 ♩=73~ 6. い ち — じ — に — じ — さん じ し じ } {は ち — じ — —



1. の り にしらはよ } やいキヲキヲ — ヤイキヲ ヤイキヲ //  
 3. ま に つけろかや }  
 5. や つ このすと }

スくずし(増進長決)

3. 5.



2. む ち つかたなや } やいキヲキヲ ヤイキヲ ヤイキヲ //  
 4. あ ら し げてイヨ }  
 6. き じ いし いち じ }

くずし1 K15 (塩道長浜)

リュミナガナマ

男

2/4

8. 10. (7R, 9R)

♩ = 77~

♩ = 83~

2. (し みち) な が は ま に ハ し わ ら べ - ぬ な き し た - さ -

7R. う れ や た る か ゆ い ハ し け さ ま - つ な せ は し た ゆ - さ い //

9. [お ぼ こ] れ じ や ゆ る ハ し か ふ - し げ せ じ や ゆ - いる //

9R. [や] ね ぬ い に が な し ハ し あ ふ - し マ タ ま く - ら //

女

2/4

11. くずし (花染め)

(10R) 9. (7R)

♩ = 79~

♩ = 87~

8. [く ぼ ぬ -] わ か く ぼ - - や ハ し う - し - げ し げ せ れ - は

8R. [わ] かな - た る と も - - て ハ し た - ち - ヤ //

10. [お し く - み ぼ] な ら - - て ハ し て - ふ - リ ふ り な ら - て

10R. [か み] な ら て か ら - - や ハ し ま - ち //

ハヤシ女

7R. 9R.

2. わ ら べ - の な き し た - さ -

9. か - ふ - し け じ や ゆ - る -

男

3/4 2/4

9. 7.

2. わ ら べ ぬ な き し た - さ -

9. か ふ し け じ や ゆ - る -

ハヤシ男

8R. 10R.

8. [う] し け し げ せ れ - は -

10. て ふ り ふ り な ら - て -

女

3/4 2/4

8. 10.

8. う し - げ し げ せ れ - は -

10. て ふ - リ ふ り な ら - て -

くずし 2 K16 (花染め)

男  $\frac{2}{4}$   $\downarrow 12.$  (11R)

女  $\frac{2}{4}$   $\downarrow 13.$  くずし (エ) ヲコロ (12R)

♩-92~ 11. (はなぞ) め --- に ほ れ --- て ハレから べと ウジ---か  
 11R. (はなぬ) さ --- お れ ら --- は ハレわこ と マ /

♩-108~ 12. (はなぞ) め --- に ふ れ --- て ハレから べと ウジ---か  
 12R. (はなぬ) さ --- お れ ら --- は ハレ //

ハヤシ女  $\downarrow 11R.$

11. ハレから べと --- じ---かめ --- て

男  $\downarrow 11.$

11. め --- て ハレから べと ウジ---かめ --- て

ハヤシ男  $\downarrow 12R.$



12. (はな) べと ウジ---かめ --- て

女  $\downarrow 12.$


12. め --- て ハレから べと ウジ---かめ --- て



# くずし3 K17 (エンヤレコレ)

※  は、特に男側では  に近づく


男



♩=136  
13. [い ま の エ] } エンヤレコレ { いまのおどりはおどりが  
♩=144  
13R. る り エ } { おどりならわは //  
15. [い ま の エ] } { いまのおどりはおどりが  
15R. る り エ } { おどりならわは

↓ 14. (13R)

女



♩=140  
14. [な が い ] } エンヤレコレ { ながいかたなはさしよが  
♩=148  
14R. し ろ } { うしろさかればまえあ //  
16. ち も ぬ } { ともぬめらばあわそに

↓ 15. (14R)

↓ 17. くずし(センセン節)(※譜略)  
(16.)

男



13. そーろ た } ホーキソンエ { 13R. お  
15. そーろ た } { 15R. お  
15R. いまなら お

↓ 16.

女



14. ごーごる ホーキソンエ 14R. う  
16. すーれば ホーキソンエ //

# 6 <うらとみ> (1~6番)



太鼓 9/2

男

1. (うらとみ) うらとみくや いきしーがやーおとりのりーるー  
 1R. みぎぬはぎさーでーやーひーだーりもーもたたー //  
 3. きぎやろくまーぎーりーおーしーまなーなまきーりー  
 3R. とくえらぶこーえーてーなーはーぬマー夕じうーちー //  
 5. うらうらやぎさーぎーさーあおはーとやーくるはーとー  
 5R. あおほとやくるはーとーのきしーてやーほなしーて //

女

2. (やまぬ) きぬたれーてーあししーのさーとうれーてー  
 2R. (あし) しぬさとうれーてーなかだーぬやーもど //  
 4. (はさ) くみならーてーてふーりふーりならーてー  
 4R. かみならちかーらーやーまぢぬーけマー夕ねちー //  
 6. (しち) はちごーらーやーゆぬーくれーどまぢーるー  
 6R. いちがよぬくれーてわぬじゆマ夕なぢーるー

## ハヤシセ

男

1. いきしーがやーおとりのりーるー  
 3. おしまなーなまきーりー  
 5. あおほとやーくるはーとー

女

2. あししーぬさーとうれーてー  
 4. てふーりふーりならーてー  
 6. ゆぬーくれーどまぢーるー  
 6R. わ //

## ハヤシ男

男

1. いきしーがやーおとりのりーるー  
 1R. ひだりもーもたたー //  
 3. おしまなーなまきーりー  
 5. あおほとやーくるはーとー

女

2. あししーぬさーとうれーてー  
 4. てふーりふーりならーてー  
 6. ゆぬーくれーどまぢーるー  
 6R. わ //

# 7 <つじごだぬうみ> (1~6番)



男

女

♩=64~  
♩=80~  
♩=118~

1.	つ	じ	ご	だ	ぬ	—	—	う	—	み	や	ん	} ヨ (-) ハレ {	う	み	き	—	ら	—	—	—	
3.	こ	れ	ほ	じ	の	—	—	あ	—	そ	び	ん			く	み	た	—	て	—	—	—
5.	(あ	そ	ば	そ)	が	—	—	た	—	め	に	ん			ひ	き	よ	—	せ	—	—	—

♩=72~  
♩=90~  
♩=126~

2.	う	て	ば	う	ち	—	—	ぶ	—	し	や	ん	} ヨ ハレ {	よ	な	り	—	し	—	—	—	
4.	あ	そ	ば	そ	が	—	—	た	—	め	に	ん			ひ	き	よ	—	せ	—	—	—
6.	→	や	ん	し	は	つ	—	ど	—	れ	や	ん			た	ふ	す	—	が	—	—	—

男

女

1.	さ	—	か	ば	—	—	さ	—	ハ	レ	う	れ	が	み	か	—	て	サ	ン	ク	ル	メ	又	ヨ	—
3.	て	—	か	ら	—	—	や	—	ハ	レ	ゆ	ぬ	あ	け	て	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5.	て	—	う	し	—	が	や	—	ハ	レ	い	も	し	も	り	—	—	—	—	—	—	—	—	—	//

2. る — ち じ — み ヨ — ハレ より — ば — よ リ //

4. て — う し — が — ハレ い — も — り — も リ // サ ン ク ル メ 又 ヨ — //

6. り — と り — り — ハレ 不明 //

男

1. — {む(ん や) ヨ — ハレ //

3. {てだ — ぬ //

# 8 <とんばら>

太鼓  $\frac{6}{2}$

男  $\frac{4}{4}$

♩=60~  
♩=112~  
♩=128~  
♩=138~

1. とんばら の いしやヨ じすきぶす みぶすヨ ハレ  
3. じしちはち ちころやヨ ゆぬくれとまちるヨ ハレ  
5. これほど のあそびヨ くみたててかちやヨ ハレ  
7. あたりさ まだけやヨ がじまるのやちたヨ ハレ

女  $\frac{4}{4}$

♩=80~  
♩=120~  
♩=132~  
♩=140~

2. はぎくみく みならてヨ てふりふりなうてヨ ハレ  
4. ごしくい しがきにヨ はゆるもとかすちヨ ハレ  
6. あそぶよと ぬあささヨ よねとめばよならかヨ ハレ  
8. これほど ぬあそびヨ くみたててかちやヨ ハレ

男  $\frac{4}{4}$

1. うれが はな さきばヨ みだれ なりハレうれが  
3. いふが よぬ くれてヨ わじゆ なりハレ  
5. ゆねあ けて てだぬヨ あがる まよと  
7. いとが さま だけやヨ なる まよと

女  $\frac{4}{4}$

2. かみなら て からやヨ まちけ ねうぬ ハレかみな  
4. はいさき や ねらぬヨ もとにか えろ ハレほいさ  
6. とりうた うとめばヨ なゆぬ あけろ  
8. よねあ け てだぬヨ あがる まよと

男  $\frac{4}{4}$

1. はな さきばヨ みだれ なり

女  $\frac{4}{4}$

2. らて からやヨ  
4. きや ねらぬヨ

# くずし1 K10 (とんぼらのくずし)

※ 楽譜は、11番以降の楽譜に近づく

男

♩=150  
♩=152  
♩=156

9. つぶんぐんやうてば うまぬこんど うちるヨハレ  
 11. はるたててきらさ あやめたる うしくヨハレ  
 13. つぶんぐんやうてば (うまぬこんど) うちるヨハレ

演唱される。

女

10. うてばうちぶしや -- や -- よなりしる -- ちじみヨハレ  
 12. じしちほちじろ -- や -- よぬくれど -- まちるヨハレ  
 14. うたかわけか -- わ -- せ -- ふしかわぜ -- かわせヨハレ

男

9. -- まましゃぐんやうてば わおねう -- ちり  
 11. -- まいたててきら -- さ わじきう -- なり  
 13. -- まましゃぐんやうてば わおねう -- ちり

女

10. -- よればよりぶし -- や //  
 12. -- いぶがよぬく -- ね -- て -- わじゆな -- ちり  
 14. -- うたねかわ水 -- ぼ -- せ -- ふしもか -- わる

くずし2 K11 (稲すり節)

男

15. すれすれ うな ぬ ぎ — すりほ — — ど まいし  
 15A. なんご く の こ め や — すりほ — — ど //  
 17. うた や わ が や く ぬ — さ な — — が め — ど  
 17A. しし ら さ な が め じ — な — リ — — が //

女

16. おぼこ れ こ や ち ゐ — か ふ。 — — し — け — ど  
 16A. やねぬ に に — か — な し — — あ ふ。 — — し — あぶし  
 18. あさま し せ う — さ よ — — も の — — お — も — て

ハヤシ女

イネスリ スリヨ アワユリ ユリヨ —

男

15. かまら 3 イネスリ スリヨ アワユリ ユリヨ —  
 17. なー 3

18. 踊り出し  
男(和歌)  
(お)

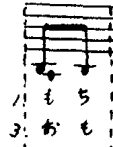
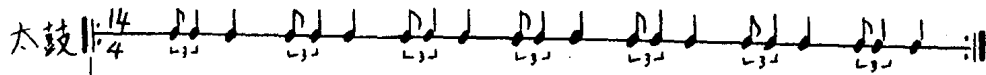
ハヤシ男

イネスリ スリヨ アワユリ ユリヨ —

女

16. やー 3 イネスリ スリヨ アワユリ ユリヨ —  
 16A. まー 3  
 19. せー 3

# 9 <しゅんかねくわ>



男

♩=40~  
♩=60~  
♩=65~  
♩=70~  
♩=73~  
♩=74~

1. (しゅん)かねくわが	ふ	し	や	わ	が	く	な	ち	う	し	が	—	さ	お	し	も	ち	い	も	れ	つ	け	て	お	せ
3. き	ゆ	や	お	せ	つ	れ	て	お	め	ご	と	や	—	あ	し	お	も	か	げ	た	た	は	き	し	
5. か	み	せ	ら	さ	て	り	る	お	ほ	ご	や	—	か	な	が	じ	に	た	ら	は	く	も	て	た	
7. は	な	せ	め	に	—	ふ	れ	て	わ	ら	べ	と	—	お	つ	き	—	か	な	の	さ	お	も	と	
9. と	し	や	と	て	—	い	ぎ	り	わ	さ	さ	や	—	は	な	の	さ	お	ら	ら	は	る	わ	こ	
11. み	ず	の	う	て	—	ぐ	ち	や	し	な	じ	な	ぬ	—	あ	れ	う	み	に	—	う	ら	る	ふ	ね



女

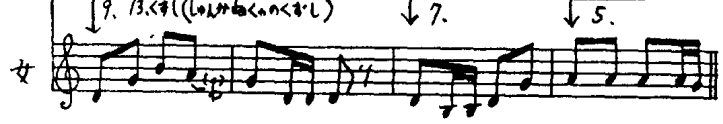
♩=59~

2. は	ぎ	く	み	は	—	な	ら	て	—	て	ふ	り	ふ	り	な	ら	て	—	か	み	な	ら	—	て	か	ら	や	ま	ち	げ	ね	ら
4. き	な	や	ろ	く	—	ま	ぎ	り	—	お	し	ま	な	な	ま	ぎ	り	—	と	く	い	ら	ぶ	—	こ	え	て	な	は	ぬ	じ	う
6. こ	水	ほ	じ	の	—	あ	そ	び	—	く	み	た	た	て	か	ら	や	—	よ	ぬ	あ	け	て	—	た	ぬ	あ	が	る	ま	で	
8. う	が	ま	は	じ	—	し	り	る	—	う	が	ま	た	な	し	り	め	—	う	が	で	し	ち	—	か	ら	や	こ	え	や	お	せ
10. お	せ	つ	れ	て	—	い	ぎ	り	—	お	め	ご	と	や	ね	ら	ぬ	—	あ	さ	じ	お	も	—	か	け	た	た	は	き	し	ま
12. あ	そ	べ	た	る	—	ね	せ	や	—	さ	く	と	め	て	と	ま	ぬ	—	わ	ぬ	や	か	—	じ	し	き	と	め	て	と	ま	



男

1. 3. 5. 7. 9. 11.	ろ	り	れ	え	に	り	} さおしもち いーもれーつけておせろ //
	ろ	り	れ	え	に	り	



女

2. 4. 6. 8. 10. 12.	ぬ	ち	に	ろ	り	ぬ	} とくいらぶーこえてー//
	ぬ	ち	に	ろ	り	ぬ	

# くずし1 K12 (しゅんかねくわのくずし)

太鼓 || 15/4

こゝからこのパターンになる

男  $\frac{2}{4}$

♩=77~ 13. うてばうーちぶーしアヤーよーなりしーるちじみヨハレ  
 ♩=112~ 15. あそばそーがたーめーにーひーきよせーてうしがヨハレ

女  $\frac{2}{4}$

♩=104~ 14. しまひとーつあーれーはみーちいきゃーてみりりヨハレ  
 ♩=130~ 16. (あ)そびそーひなーらーてーきよしかわーかれりるヨハレ

男

13. よりはよーりぶーし //  
 15. ひとりよーせよーせエとーあーそでたーぼれヤシリヤ

(16) 男「東西東西…」踊り終了

女

14. しまわかーれあーれーはーおー //  
 16. なくなくのわーかー //



# 10 <ねんごろじゆ>

太鼓  $\frac{7}{4}$

男  $\frac{2}{4}$

♩=40  
♩=62  
♩=67  
♩=72

1. (さげせく) わすれた	--	ヤ-ソレ	ねんごろじゆが	やど-に	たほこ-	のむ-と
3. (さや) おせつ	--	て-ソレ	おめごと	やねら	あせ	じおも
5. かみぢら	さて	り-	る-ソレ	あじや	ぬお	つきた
7. しちは	ちご	ろ	ヤ-ソレ	よぬくれ	どま	ちるい
					つが	よぬくれ

女  $\frac{2}{4}$

♩=55  
♩=67

2. あう	わす	れた	--	ヤ-ソレ	ねんごろ	じゆが	やど-	に	あせ	ぬ	はる-	と
4. し	まい	とつ	あ	れ	--	は-ソレ	み	ちい	き	て	み	り
6. こ	れ	ほ	じ	ぬ	あ	せ	--	び-ソレ	く	み	た	て
8. う	ち	だ	い	る	み	ふ	--	ね-ソレ	よ	し	で	し
									ま	ら	ぬ	い
												も
												し
												も
												り
												し

男  $\frac{6.8.}{4.} \frac{2}{4}$

1. --き-お	--	ぬ	じ	-	ら	が	の	む	と	--	き-ソレ	の	む	と	き	た	は-	こ //
3. --ぬ-た	た-	は	き	-	ら	リ //												
5. --ほ-く	も	-	て	//														
7. --て-わ	じ-	ゆ	な	-	ら	リ //												

女  $\frac{5.7.}{9.}$

9. くすし (花部一番)

2. --き	お	--	ぬ	じ	-	ら	が	は	る	と	--	き-ソレ	は	る	(こ) //
4. --は	お	//													
6. --ぬ	あ	か	--	る //											
8. --ら	お	--	も //												

アツキアイチナン  
 ぐずし 1 K5 (芦花部一番)

※ 9. ではここからもう一度繰返す

男

♩=73~  
 ♩=76~

9. (あしきぶ) いちはぬ(2)やーとどのちのはかなヨー ハレくはやいちはぬ(4)やーさぬくくほやヨノヘー  
 11. あがれーたちくもぬーいさわかれみりはヨー ハレかなといさわかーれーうりがごと//  
 13. いこいーこにすれーはあどめささやしがヨー ハレうろうろにすれーばわびやき(しりヨ) //

女

10. くほぬわかくばーやーういげしげしりばヨー ハレわかなたるともてーたちやよとみ//  
 12. かしきーらさてりーるーおじじやぬあつきヨー ハレかながじにたたーばーくもてたほれ//  
 14. しらくもやまさーりかせつれていきりヨー ハレわのやかなつれて //

# くずし2 K6 (うんにやだる)

男

♩=77~  
 15. うんにやだる ふりむんコレち ニれ-くハ アは-は んにやげ-て- - - あかきな  
 17. し-ちほちごろや-コレゆ ぬく-れ エど-ま - - ち-り- - - い-ろが

女

♩=80~18. (ニれほとの)  
 16. フの まが<sup>リ</sup>ヤ-コレし にばや アし-か -み-り- - - な-ほん  
 18. あそび-コレく みたて エて-か -ら-や-エ -ゆ-ぬあ

男<おぼし>(略)踊り終了

## ハヤシ女

男

15. か-ち - とと じ-なりが-ほりくら-て-//  
 17. よ-ぬ - く-れ て-わじゆ-な- -り-り//

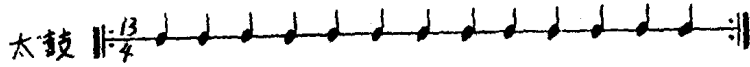
## ハヤシ男

女

16. が-さ - (ハヤシ) か-さ ば-ぬやくた- -り- - - → \*に帰て2小節歌う。  
 18. け-て //

踊りが盛り上がると、  
 女の演唱時、太鼓のリズムに  
 合わせて男が右のようなかけ声  
 をいれる。

ニヲ 一トナキ  
1 1 <庭ぬ糸柳> (1~6番)



男

♩=65~ 1. {にわのい}とやな き かせに さそわれ て かせ  
♩=69~ 3. {うた}やわ がやく ぬ きなが めじなり る し  
♩=73~ 5. せつや みぞぐる ま めぐり あゆれど も か

女

♩=58~ 2. {あし}くみばなら て てふり ふりなら て かみ  
♩=73~ 4. {おもてさえ}お心 ぼ あとさ きどなり る せ  
♩=76~ 6. {かみぎ}らさてゆ る おじじ やのおづ さ か

男

♩=72~ 2. 2. ♩=76~ 4. ♩=76~ 4.

1. に さそわれ てンヨ //

3. ら きながめ エンヨ になり がし よろヨ

5. が せつわ せ ンヨ まわ しぐる //

女

♩=72~ 2. ♩=76~ 4. ♩=76~ 4. ♩=76~ 4.

2. な らてか ら やンヨ まちけね らぬヨ かみならて

4. や みぞぐる まンヨ めぐりあ ゆるヨ //

6. が じじにた た ンヨ くもて た ぼれヨ //

1 2 <人が嫁女> (1~6番)

男 かけ声

太鼓

踊りが盛上ると、女の演奏中、男が太鼓のリズムに合わせてこの様なかけ声をかける。

1番の録音ニから

男

女

♩=35~  
♩=53~  
♩=62~

1. (いとがよ め じや か れ) き ん は な — よ —  
3. {きゆぬ} ほ こら し — や — い フ よ リ も ま さ — リ —  
5. {あそび} そ び な ら — て — き し が わ か れ リ — る —

♩=43~  
♩=56~  
♩=65~

2. {かれ—き} く だ め と — て — な リ き ひ き よ せ — て —  
4. {はぎくみ} く み な ら — て — て ふ リ ふ リ な う ら — て —  
6. {わか—れて} や い き — リ — ぬ が か た み う き — リ —

男

女

4.

1. — イ — ぬ が ろ ぬ — が ろ に — — お と ろ — し や  
3. — イ — い フ も ぬ の ご と に — — あ ら ち た ほ れ //  
5. — イ — な く な く ぬ わ か れ — イ ぬ ら ぼ き し リ

2. — エ — う て — ら ほ も た げ に — — さ と ち ち み ち  
4. — エ — か み — な ら て か ら や — — ま ち け ね ら ぬ  
6. — エ — あ せ — は だ ぬ て の げ — — う れ じ か た み

男

女

6.

2.

3. 5. 7. (INT略)

1. ぬ が ろ ぬ が ろ — — に — — — ぬ が ろ //  
5. な く な く ぬ わ か れ — — — な //

2. う て ら は ら も た げ — に — //  
4. か み な ら て か ら — や — — エ — か //  
6. あ せ は だ ぬ て の — げ //

# 13 <うりやげどり> (1~4番)

太鼓  $\text{11/4}$

※ 2.以降、ビッチが譜より  
ほぼ半音高くなる。

男

1. (アハム) ぐわー や うて --- ぼーハレ うまぬーこ オ  
 1R. (ま)まじ ぐわー や うて --- ぼーハレ わむねーマ ア  
 3. (き)うや おー や せ つれ --- てーハレ おぬごーと オ  
 3R. (あ)さじ おー も か け --- ぬーハレ たたんばーマ ア

女

2. (うたや) わ --- が や く --- ぬーハレ きな がーめ エ  
 2R. ししら き --- な が め --- ぬーハレ なり がーマ ア  
 4. (こねほ) じ --- ぬ あ そ --- びーハレ くみ たーて エ  
 4R. よぬあ け --- て て だ --- ぬーハレ あが るーマ //

ハヤシ女

1. ハレうまぬーこ オどーうち --- ーる  
 3. ハレおぬごーと オやーねら --- ぬ

男

1. どーうち --- ーるーハレ うまぬーこ オどーうち --- ーる  
 1R. ち --- ち --- ーる //

ハヤシ男

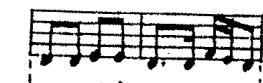
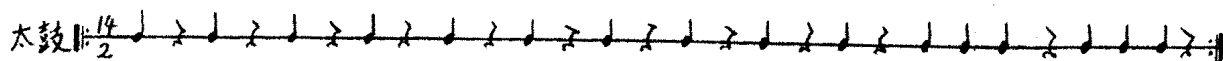
2. ハレきながーめ エどーなり --- ーる  
 4. ハレくみ たーて エて --- ーから --- や

女

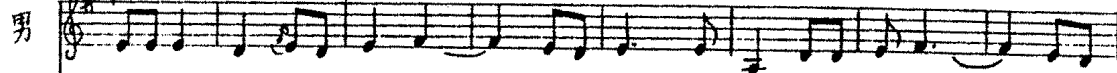
2. どーな --- り --- ーるーハレ きな がーめ エどーな --- り --- ーる  
 2R. ち --- し --- ち --- ーるーハレ なり がーマ アち --- し --- ち --- ーる  
 4. て --- ーか --- ら --- ーやーハレ くみ たーて エて --- ーか --- ら --- ーや

アキナカノミツノソドヲ

# 14 <赤木名観音堂> (1~6番)



1. あかきな かん の 松



♩=90~  
♩=60~  
♩=68~

1. あかきな かん の 松 せ — — や — — い つ — ぶ か — — ち —  
3. [さんだ] ま け — ま — — け — — ど こ — ね だ — — ね —  
5. [わ-の] て の — け — — ば — — あ わ — — せ — — に —

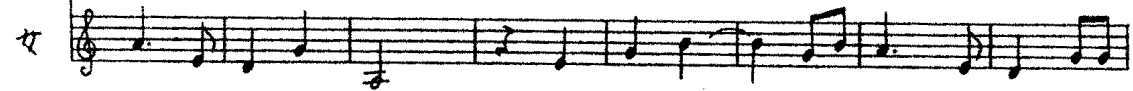


♩=52~  
♩=65~  
♩=70~

2. [ス-ズン] ぐ やう) て — — ば — — う ま — ぬ こ — — じ —  
4. [い-まの] お じ-り — — は — — お じ-り こ — — が —  
6. [いし-てう] た ぬ 水 — — ば — — も も — だ る — — さ —



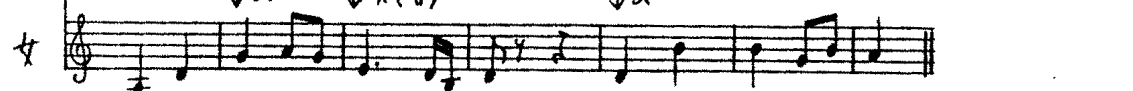
1. — な お — ろ — — な お — — ろ — — な お —  
3. — お ろ — せ — — お ろ — — せ — — な お —  
5. — す れ — ば — — よ る — — の — — よ が —



2. — う ち — る — — ま ま — — し — — ぐ や — う  
4. — そ う — た — — お じ — — り — — な ら — た  
6. — や す — が — — ぜ わ — — ぬ — — ほ い — た



1. ろ — オ に — な — — //  
3. て — エ て — や — — // や — — せ — — さ か //  
5. ら — ア す — な — — // ア — — き — — わ か //



2. て — — ば — わ — — // ア — む ね — — //  
4. わ — — ば — い — — //  
6. て — — て — お — — //

# 15 <やんごらぬいぶ>

太鼓  $\frac{10}{4}$

男  $\frac{2}{4}$   $\frac{3}{4}$   $\frac{4}{4}$

女

$d=50\sim$	1.	やんごら	のいぶ	—	やび	いどか	けて	つ	リ	ヨ—ハレ
$d=63\sim$	3.	[こほ]	のの	—	—	くみ	てま	つか	らや	
$d=70\sim$	5.	[かさ]	ら	—	—	よそ	まな	か	らで	
$d=75\sim$	7.	[かさ]	ら	—	—	おま	なら	か	ら	
$d=117\sim$	9.	[おき]	ら	—	—	あし	は	か	ら	
$d=130\sim$	11.	[あさ]	ら	—	—	あて	ふ	ま	ら	
$d=55\sim$	2.	(うた)	わが	—	や	く	め	な	リ	ヨハレ
$d=82\sim$	4.	(あしく)	みく	—	な	ら	とり	なく	ら	
	6.	(うち)	わ	—	だ	さ	つ	く	ら	
$d=105\sim$	8.	(しら)	く	—	ま	さ	れ	いま	ら	
$d=122\sim$	10.	(き)	や	—	ま	ぎ	な	ま	ら	
$d=134\sim$	12.	(いこ)	に	—	す	れ	や	ま	ら	

男  $\frac{6}{4}$   $\frac{10}{4}$   $\frac{12}{4}$   $\frac{8}{4}$   $\frac{2}{4}$

女

	1.	やん(の)	み	わ	ら	べ	—	や	さ	し	つ	リ
	5.	いじ(た)	ち	る	ま	ぎ	—	リ				
	8.	しくい(う)	ら	ぶ	ま	え	—	て	—	な	は	ぬ
	9.	かな(う)	く	し	う	む	—	て				じ
	11.	か	み	ら	て	か	—	や				う

2.	は	し	ら	さ	な	—	か	め	—	じ	//
4.	か	み	な	ら	な	—	か	ら	—	や	//
6.	—	わ	か	な	た	—	だ	な	—	や	//
8.	—	わ	ぬ	や	な	—	ん	れ	—	て	//
10.	と	く	い	ら	ぶ	—	こ	え	—	て	//
12.	う	ら	う	ら	に	—	す	れ	—	ば	//

くらしな //



16 <喜界や湾どまり> (1~6番)



男

女

1. わんじまーり うーいーがーり ちりーり ハレ  
 3. こ水ほじーぬあーそーび くーあたてーて かーらーや ハレ  
 5. あそほそーがたーわーに ひーきよせーて うーしーが ハレ

2. ききやろーくまーきーり おーしまなーなまーぎーり ハレ  
 4. はぎくみくーみなーらーて てーふりふーり なーらーて ハレ  
 6. あそびそーびなーらーて きーしがわーか れーりーる ハレ

男

女

1. みーおくがーれりーり やーまだひーらだ } ヤシドーハレ  
 3. ゆーぬあけーててだーアぬ あーがるまーでに }  
 5. ひーとりよーせよせーエヒ あーそでたーぼれ }

2. とーくえらーぶこーえー エーなーはぬじーうち } ヤシドーハレ  
 4. かーおならーてかーらーアやーまーちけねーらぬ }  
 6. なーくなくーぬわーかーア水ーしー紗ほきーしり }

ハヤシセ

エヤツレレ

4. 6. 2.

男

1. みーおくがーりーり ちりーり みーおくがーりーり  
 3. ゆーぬあけーててだー ゆーぬあけーててだー  
 5. ひーとりよーせよせー ひーとりよーせよせー

ハヤシ男

エヤツレレ

3. 5. 7(略)

女

2. とーくえらーぶこーえー とーくえらーぶこーえー  
 4. かーおならーてかーらー かーおならーてかーらー  
 6. なーくなくーぬわーかー なーくなくーぬわーかー

# 1 7<ヒヤルガヨイソレ>

※ 全体的に  $\text{♩}$  は  $\text{♩}^{\flat}$  に近づく傾向がある。

太鼓  $\text{||: } \frac{6}{2} \text{||}$

男  $\text{♩}^{\sharp}$

1. うてばう — — ち — — ぶ し ゃ } ヨ ハレ { よ な り  
 3. みさき し ゃ — — ぬ — — あ ま ら ぎ ゃ } せ は  
 5. さきや ん ら — — く — — ま て り ゃ } お し ま  
 7. かみ ん ら — — さ — — て り } お じ ゃ

女  $\text{♩}^{\flat}$

2. うてばう — — ち — — ぶ し ゃ } ヨ ハレ — { よ な り  
 4. あめやんじけわ — — い — — ど い か わ う し  
 6. あらしゃげわ — — に — — し け わ  
 8. くほぬわ — — か — — く は や } う し た け

男  $\text{♩}^{\sharp}$

1. し る ぶ じ ゃ み } ホ ロ ヤ ヤ ヤ ヒ ヤ ル ガ ヨ イ ソ レ  
 3. ら し な ぶ き ゃ り }  
 5. な な ま き ゃ り }  
 7. や ぬ お づ ず り } // //

女  $\text{♩}^{\flat}$

2. し る ぶ じ ゃ み } ホ ロ ヤ ヤ ヤ ヒ ヤ ル ガ ヨ イ ソ レ  
 4. ら し ら — — ぶ り ゃ }  
 6. あ ら — — し ゃ げ }  
 8. し げ — — ず り } // //

男  $\text{♩}^{\sharp}$

1. ♫-ン ヨ - ヤ ♫-ン ヨ -

# くずし1 K7 (ヒヤルガフェ)

男



♩=142  
♩=146

9. (な)かぐい—き—きばいきや—ぬか—れ—  
11. あらし—けに—し—けにわうた—あ—ら—し—

女



♩=143  
♩=150

10. これほとぬあ—そびくみた—てて—か—  
12. かみざらさて—りるおじご—やぬ—お—

男



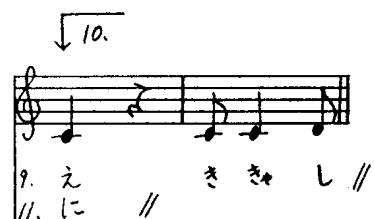
9. らぬ } ヒヤルカフェ { とてやあ—らし—ご—  
11. けに } { たげにあ—らし—け—

女



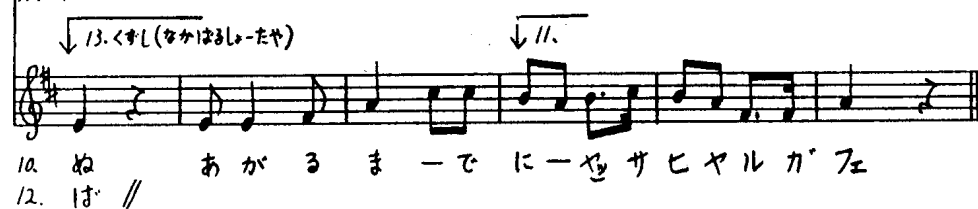
10. らや } ヒヤルカフェ { よねあけ—てて—だ—  
12. つか } { かながじ—にた—た—

男



9. え ききし //  
11. に //

女



10. ぬあがるま—で—に—やサヒヤルカフェ  
12. け //

# くずし2 K8 (なかばるしょーたや)

※ 全体的に、 はほとんど  に近づく

男  $\text{♩} = 152 \sim$  13. (なかばる) は たや あずさいーれて なかばる うりがしーたる

女  $\text{♩} = 156 \sim$  14. (街) なぐーみ のあーわれ いとやーなーきこころーかぜのおそ

男 13. や くじい さわいーこーややーまとー(まちじい)ーくーや おーしま  
間を取らない

女 14. いーままーなびこーなびこし のき  
15. (くし(ヤ-ヨヌフェ))

# くずし3 K9 (ヤーヨヌフェ)

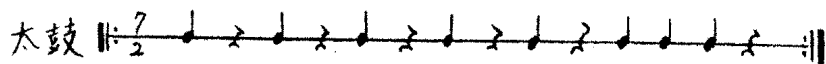
男  $\text{♩} = 160 \sim$  15. なふーかごえききーは } ヨーサト { い きやぬーか れらぬ  
15R. とてーやあらしじーえ } ヨーサト { き きやぬーか れらぬ

女 16. じーち はちごろーや } ヨーサト { よ のく れーど ま ちる  
16R. いふーがよのくれーて } ヨーサト { わ じゆなーりり ヨノ

男 15. ヨ 15R. ㄱ  
ハヤシ女 (ヤ ヨ ノ ㄱ)

女 16. ヨ ㄱ (ヤ ヨ ノ ㄱ) と ㄱ と ㄱ (踊り終了)  
16R. ㄱ (ヤ ヨ ノ ㄱ) かけ声男  
ハヤシ男

# 18 <港川水> (1~6番)



男

1. [みなと ー か ー ー] わな ー ー み ず や ン ヲ  
 1R. わのや ー か ー ー わな ー ー みい ら ず や ン ヲ  
 3. (きう)の ー ほ ー ー この ー ー ら し と や ン ヲ  
 3R. いスも ー こ ー ー のの ー ー ら し と や ン ヲ  
 5. [こ水]ほ ー び ー ー のの ー ー あ て と そ だ ン ヲ  
 5R. よぬあ ー け ー ー て ー ー あ て と そ だ ン ヲ

2. (1R) 4. 6. (3R) (5R)

女

2. [はきく ー] みら ー ー ば な ら て ン ヲ  
 2R. かみな ー ら ー ー て な か ら て や ン ヲ  
 4. [しまや ー] た ー ー ぬ ー ー か し ら ま ン ヲ  
 4R. み糸に ー ひ ー ー か ー ー さ ち ら ン ヲ  
 6. (み糸ぬ ー う ー ) ー ー ざ ー ー ま て や ン ヲ  
 6R. めらべ ー ー ー ー ー ー ぐ ち ら ン ヲ

男

1. ー い ー き ー て も じ ろ ー ー ー  
 3. ー よ(ー) ー り も ま さ り ー ー ー  
 3R. ー ち(ー) ー マ タ //  
 5. ー た(ー) ー て て ー か ら や ー ー ー  
 5R. ー る(ー) ー マ タ ま で に //

女

2. ー り ー ー ふ り な ら て ー ー ー  
 2R. ー げ ー ー マ タ な ら ぬ ー ー ー  
 4. ー る ー ー ぎ や ね ら ぬ ー ー ー  
 4R. ー ば ー ー マ タ か わ る ー ー ー  
 6. ー じ ー ー な ぬ ー ー ー ー ー  
 6R. ー ぬ ー ー マ タ ー ー ー

7. (略) 3. (略) 5. (略)

# 19 <ヤサレノトイトイ> (1~6番)

太鼓  $\text{11} = \frac{14}{4}$

1. (明) な と か ] わ み す や ソレ う し い き て も ど --- 3 ハレ う し い  
 1R. わ の や か な い き て ソレ な し --- 3 マ タ も ど --- 3 ハレ な し //  
 3. (きう) や お せ つ れ て ソレ お め --- 3 と や ね ら --- ぬ ハレ お め --- 3  
 3R. あ さ じ お お も か げ ぬ ソレ た た --- ば マ タ き し --- リ //  
 5. (い き) [い ] き ろ に す れ ば ソレ あ と --- め マ タ さ や し --- が ハレ あ と --- め  
 5R. う ろ う ろ に す れ ば ソレ わ ど --- や マ タ し --- リ //

2. [う ち は] ら て さ き る ソレ き く --- ぬ は な み れ --- ば ハレ き く --- ぬ  
 2R. ゆ て い き る し ぬ ソレ わ か --- く マ //  
 4. [あ さ じ] お も か げ ぬ ソレ た て --- 3 と や し ら --- ぬ ハレ た て --- 3  
 4R. よ さ り き や ま く ま ソレ あ //  
 6. [か み き] ら さ て り る ソレ お じ --- 3 や ね お づ --- き ハレ お じ --- 3  
 6R. か な が じ に た た ば ソレ く も --- て マ タ //

ハヤシ女  $\text{11} = \frac{14}{4}$

1. き て も ど --- 3  
 3. と や ね ら --- ぬ

ハヤシ男  $\text{11} = \frac{14}{4}$

2. は な み れ --- ば  
 4. と や し ら --- ぬ  
 6. や ね お づ --- き

20 <牛やだり> (1~6番)

太鼓  $\text{♩} = \frac{22}{4}$

男

1. (う ちば-) う ち ば — し や — ゆ な り — し う る — ち — し — み  
 3. (き) う や お — せ つ — れ — て お ね じ — と オ ヤ — ね — ら — ぬ  
 5. お ぼ こ れ — じ や — ゆ — る か ふ し — け エ じ や — ゆ — る

女

2. (う た や) わ — が や — く — の ( ) さ な が — め エ じ — な — し — る  
 4. お せ つ れ — て い — き — り お ね じ — と オ ヤ — ね — ら — ぬ  
 6. お さ ま し — き う — き — よ も の お も オ て — き — し — り

男

1. ヒ ヤ ル ガ — 左 ハ レ { よ り ば — よ — り — ぶ — し — や か な が — お  
 3. { あ さ じ — お — も か — //  
 5. { や ね ぬ — に //

女

2. ヒ ヤ ル ガ — 左 ハ レ { は し ら — き — な が — め — じ //  
 4. { あ さ じ — お — も か — げ — ぬ た た  
 6. { い し り — か — た ら — た — り す

# 21 <あがんむら>

太鼓  $\text{17}$   
4

男

1. (あがん) も ら あ く -- や -- ゆ き む ら -- の は ぐ さ } ヨ ハレ  
 3. あ さ じ も お ら あ か け -- -- ぬ -- -- た て ん と -- や し ら き }  
 5. あ そ ぶ よ ぬ あ あ さ せ -- -- さ -- -- よ く ね と ぬ -- は ま な ら }  
 7. こ れ ほ ど は ぬ あ あ び -- -- び -- -- く み た て -- て ま か な }  
 9. (じ) し ち は ち ぐ ー -- -- や -- -- ゆ ぬ く れ ぶ -- ぶ ち ち }  
 ♪=50~  
 ♪=65~  
 ♪=78~  
 ♪=90~  
 ♪=112~

女

2. (き) う や) お せ つ れ -- -- て -- -- お わ ん と -- や ね ら ね } ヨ ハレ  
 4. (こ れ ほ ど ぬ) つ あ そ れ -- -- び -- -- く み た て -- て ね か ら ね }  
 6. (と り う た て) て) あ か い そ ら け -- -- や -- -- ま く ら と -- て ぬ い }  
 8. (あ ら せ つ) も も か い さ け -- -- り -- -- し け ー -- し ー も }  
 10. (お ぼ こ) り ど ー -- -- る -- -- か ぶ さ け -- -- け ー -- ぶ }  
 ♪=50~  
 ♪=65~  
 ♪=78~  
 ♪=90~  
 ♪=112~

男

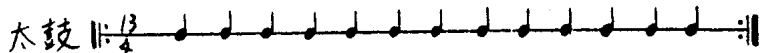
1. -- さ や ー ん め に あ て -- -- じ -- -- ゆ ほ し -- な た な }  
 3. -- ゆ さ り ー ゆ や や あ く -- -- ま -- -- あ そ び -- た ほ }  
 5. -- と り う ー た た う と ぬ -- -- ば -- -- な ゆ ぬ -- あ け }  
 7. -- よ ぬ あ け て て く -- -- ぬ -- -- あ が る -- ま け }  
 9. -- い つ が ー ゆ ぬ く ぬ -- -- て -- -- わ じ ゆ -- な け }  
 ♪=50~  
 ♪=65~  
 ♪=78~  
 ♪=90~  
 ♪=112~

女

2. -- { あ さ に ー お け も か け -- -- の -- //  
 4. -- { ゆ ぬ あ ー け て も か け -- -- の -- //  
 6. -- { わ や ぬ ー き び ぐ ち //  
 8. -- { あ そ び ー づ け け ー -- し -- あ ぶ し -- //  
 10. -- { や ぬ の ー に き に が な -- -- し -- あ ぶ し -- //  
 ♪=50~  
 ♪=65~  
 ♪=78~  
 ♪=90~  
 ♪=112~



# 2 2 < 曲りよ高ちじ > (1~6番)



男

1. まがりた かちじーに ちちーんぐ ほとぼーし ヤーハレ  
 1R. うれが あーかがりし のーで マ タいもーれ //

2. これほ どーぬあそび くみーたて てからーや ヤーハレ  
 3R. よぬあ けーてでだーぬあ がーるマ タまでーに //

3. ほぎく みーばならーて てふーりふ りならーて ヤーハレ  
 5R. かみな らーてか らー。や まちーけ マ タねらーぬ //

女

2. あめや どーいど いーと かきーなら しふりーり ヤーハレ  
 2R. きも ち けーぬか なーや ぬれーて マ タいもーれ //

4. あとふ らーほふ らーで かきーふら ほふらーで ヤーハレ  
 4R. なまふ りーるほれーや (以下演唱歌詞不明) //

6. あさま しーきう きーよ ものーおも てきしーり ヤーハレ  
 6R. いしり かーたら たーり るーが マ タう きーよ //

## ハヤシ女

男

1. ヤ ハレ ちちーんぐ ほとぼーし  
 3. ヤ ハレ くみーたて てからーや  
 5. ヤ ハレ てふーりふ りならーて

1. ちちーんぐ ほとぼーし  
 3. くみーたて てからーや **ハヤシ男**  
 5. てふーりふ りならーて

女

2. ヤ ハレ かきーなら しふりーり  
 4. ヤ ハレ かきーふら ほふらーで  
 6. ヤ ハレ ものーおも てきしーり

2. かきーなら しふりーり  
 4. かきーふら ほふらーで  
 6. ものーおも てきしーり

# 23 <かんでく> (1~8番)

太鼓  $\frac{16}{4}$

3. こいぬ

1. こいぬから叩き始めた

男

- d=40~
- d=65~
- d=72~
- d=83~

1. かんでい おーめ なべ エやー こーと つげー のー た ぼー  
 3. こいぬ やーり やしゃ ウまーぬーか ぼひーとー さーらー  
 5. こいぬ やーり やしゃ ウまーしーけく すーろーすり  
 7. おもわ だーな し ちウ てーこーいぬ しーらーり よー

女

- d=57~
- d=68~
- d=75~
- d=86~

2. もつれくーさい とひ りやーにーも つれろーにーすいれー  
 4. うちひらーさい とひ りやーにーいぬ もつれろーにーすいれー  
 6. わやにてーりで りやーにーあせ りらこさーちほーやうたけー  
 8. おもわ ぼーも たけーにーそ りらこさーちほーやうたけー

2. 8. 6.

男

1. こハレ ま たも こーと つげー エやーもーつれ たーぼー  
 3. わハレ うーちひ らーいひ らーアいーぬーか ぼきーらー  
 5. ぼハレ わーやに てーりで りやーにーあーりこー //  
 7. めハレ おーも た せーつ 不明 エやーこーえや おーせー

女

2. ぼハレ こーいぬ やーり やーしゃ ウーま しーげく たーぼー  
 4. りハレ こーいぬ やーり やーしゃ ウーま しーげく たーぼー  
 6. ぬハレ おーもわ だーな しーちウーてーこーと ぼなーさー  
 8. にハレ まーしり ぐーち たーげ エーに おーも て たーぼー

4.

男

1. こ } // やーし りや ハレ { うーちひ らーいひ らーアいーぬーか ぼ //  
 3. く } //  
 5. 3 } //  
 7. 3 } //

5. 3. 7.

女

2. れ } やーし りや ハレ { こーいぬ やーり やーしゃ //  
 4. れ } //  
 6. け } //  
 8. れ } //

# 24 <めぐりあんど> (1~6番)



このパターン×2=18拍で踊りの一周期。  
2

男

♩=78  
♩=58  
♩=62

1. (い) (ほ) (ね) あ--そ --び--ハレく み--たて --てい か--ら-- アヤ--ハレよ--の あ  
3. (ま) (か) (こ) (え) き--け --ば--ハレい き--やぬ --か れ--ら-- アぬ--ハレと--てや  
5. (ち) (み) (か) (ん) やう--て --ば--ハレう ま--ぬこ --じう--ち-- うる--ハレま--まし

女

♩=54  
♩=60  
♩=62

2. (い) (ち) (ほ) (ち) (は) (ち) ゴ--ろ ---や--ハレゆ ぬ--くれ --とま--ち-- うる--ハレい--つ--が  
4. (い) (ほ) (ね) あ--そ --び--ハレく み--たて --てい か--ら-- アヤ--ハレよ--の あ  
6. (う) (て) (は) (う) (ち) (ぶ) (し) ---や--ハレよ な--リし --るち--じ-- うみ--ハレよ--れ--は

男

1. け --て て--だ-- アぬ--ハレあ--がるま --でにオセ  
3. あ --らし--ぐ-- ウい--ハレき--さした --ぼれ//  
5. ぬ --やう--て-- エばハレ//

女

2. よ --ぬく--り-- イて--ハレわ--じゆ--な --り--り } オセヤ ゾンド  
4. け --て て--だ-- アぬ--ハレあ--がるま --でに }  
6. よ --りぶ--し-- アや--ハレか--なが--お --そは }

# 25 <いそ踊り>

太鼓  $\frac{16}{4}$

男

女

♩=30~ 1. [いそ] --- たす --- 水 --- --- ば --- ハレ --- も --- も --- だ --- る ウ --- さ --- や --- し --- が --- エ --- ハレ  
 ♩=45~ 3. お --- し --- く --- み --- ば --- な --- ら --- --- て --- ハレ --- て --- ふ --- り --- ふ ウ --- り --- な --- ら --- て --- エ --- ハレ  
 ♩=68~ 5. ち --- じ --- み --- ぐ --- や --- う --- て --- --- ば --- ハレ --- う --- ま --- ぬ --- こ オ --- じ --- う --- ち --- る --- エ --- ハレ  
 ♩=75~ 7. お --- ぼ --- こ --- 水 --- じ --- や --- ち --- --- る --- ハレ --- か --- ふ --- け --- げ エ --- じ --- や --- ち --- る --- エ --- ハレ

♩=53~ 2. (いそ) --- く --- み --- な --- ら --- --- て --- ハレ --- て --- ふ --- り --- ふ ウ --- り --- な --- ら --- て --- エ --- ハレ  
 ♩=62~ 4. [いそ] --- は --- ち --- ぐ --- る --- --- や --- ハレ --- よ --- ぬ --- く --- 水 エ --- じ --- ま --- ち --- る --- エ --- ハレ  
 ♩=73~ 6. [いそ] --- じ --- の --- あ --- き --- --- び --- ハレ --- く --- み --- た --- て エ --- て --- か --- ら --- や --- エ --- ハレ //

男「東西東西」踊り終了

男

女

♩=40~ 1. で --- わ --- き --- ほ --- い --- た --- て --- エ --- て --- ハレ --- お --- ど --- と --- オ --- よ --- も --- } ヨ --- オン  
 3. か --- み --- な --- ら --- て --- か --- ら --- ア --- や --- ハレ --- ま --- ち --- げ --- ね --- エ --- ら --- ぬ --- }  
 5. ま --- ま --- し --- ぐ --- や --- う --- て --- エ --- ば --- ハレ --- わ --- む --- ね --- う --- ち --- る --- }  
 7. や --- ね --- ぬ --- い --- に --- が --- な --- //

2. か --- み --- な --- ら --- て --- か --- ら --- ア --- や --- ハレ --- ま --- ち --- げ --- ね --- エ --- ら --- ぬ --- ヨ --- オン  
 4. い --- づ --- が --- よ --- ぬ --- く --- 水 --- //

## ハヤシ女

男

女

♩=30~ 1. ド --- エ --- ヤ --- レ { --- わ --- き --- ほ --- い --- た --- て --- ハレ --- で --- わ --- き --- ほ --- い --- た --- て ---  
 3. { --- か --- み --- な --- ら --- て --- か --- ら --- ハレ --- か --- み --- な --- ら --- て --- //  
 5. { --- ま --- ま --- し --- ぐ --- や --- う --- て --- ハレ --- ま --- ま --- し --- ぐ --- や --- う --- て ---

ド --- エ --- ヤ --- レ

## 資料2付録 演唱歌詞一覧

- ・その曲における演唱番号(奇数=男、偶数=女)の後に、久万田1990資料6における該当歌詞番号、歌詞、対訳の順に示した。ただし表記は実際に演唱された形に従ったので、久万田1990資料6とは異なったものがある。
- ・同じ歌詞でも、演唱によって違った形で歌われている。これは歌唱者による記憶・伝承の違いや、演唱において特定の旋律への適応の仕方の違いが出ていると思われる。
- ・また曲によっては、演奏形式の関係から、歌詞の全体は歌われない。(案講参照)
- ・八月隔りの演唱においては、本来中舌母音で歌われるべき部分が五母音化して歌われる傾向がある。ここではあえて表記を統一せず、演唱毎の歌われ方に従った表記を試みた。
- ・大和系7775調歌詞の歌意は省略した。
- ・対訳において、城前田でも難解とされる一部の歌詞は『奄美大島民謡大観』、『南島歌謡大成 V奄美編』を参照した。以下「大観」、「大成」と略記する。

## 1 &lt;おぼこれ&gt; (1~2番)

- |       |  |           |         |        |
|-------|--|-----------|---------|--------|
|       | お  | 報         | 来       | あ      |
| 1 001 | おぼこれどやゆる                                       | 果報しゃげどやゆる | 来年の稲がなし | あぶしまくら |
|       | (有難うございました、大変祝福を頂きました、来年の稲様は(田が畦枕になるほど)実って下さい) |           |         |        |
|       | トツ   | に         | ミ       | ミ      |
| 2 002 | 今年世や一倉   | 来年が世や二倉   | みちが世や三倉 | 三倉あがる  |
|       | (今年の世は一倉 来年の世は二倉 再来年の世は三倉 三倉上がろう)              |           |         |        |

## 2 &lt;祝つけ&gt;

- |       |   |          |           |        |
|-------|---|----------|-----------|--------|
|       | 祝   | 特        | お         |        |
| 1 007 | こん殿地庭に                                      | 祝つけておしよろ | これからぬ先や   | お祝ばかり  |
|       | (この御屋敷の庭に祝付けをして差し上げましょう これから先はお祝いばかりです)     |          |           |        |
| 2 023 | 西からもゆりゆり                                    | 東からもゆりゆり | いじたちゆるまざり | あさきよらさ |
|       | (西からも寄ってくる、東からも寄ってくる、出で立っている大勢の人々が荒々しくも美しい) |          |           |        |
| 3 010 | 殿地あみしゅれや                                    | 果報な生れやしが | 米倉や前なち    | 床やくしゅれ |
|       | (この御屋敷の奥様は果報なお生まれだ、米倉は前にして、床は後にして)          |          |           |        |

## 3 &lt;祝つけ&gt; くずし1 (あらしゅげ)

- |       |  |          |            |          |
|-------|--|----------|------------|----------|
| 4 384 | 一わかしもいらぬ   | 二わかしもいらぬ | 泡盛りぬお酒     | 三合給れ     |
|       | (一沸かしも要らない、二沸かしも要らない、泡盛のお酒をただ三合下さい)  |          |            |          |
| 5 041 | いりきはしゅ米や   | なべの底 舞ゆり | しゅしらあみしゅれや | 心 舞ゆり    |
|       | (煎った米は、鍋の底を舞う、私達貴方達は、心が舞う)   |          |            |          |
|       | *「しゅしら、あみしゅれ」とは本来「御主人様、奥様」を表すと思われるが(『大観』p.263参照)、現在の城前田の伝承では、「しゅしら」とは「汝きゅ吾きゅ(私達貴方達)」の意という答えを得ている。以後の訳では、その意に従っておく。 |          |            |          |
| 6 009 | ごばんしぶの木や   | ご揃えて美らさ  | ご揃えて美らさ    | 吾きゅじきうなり |
|       | (ごばんしぶの木は、(姿?が)揃って美しい、揃って美しいのはまた、私達の姉妹だ)   |          |            |          |

3 <まけまけ>

1 044	さんだまけまけ ア アガ	トコガキ 大根種おろせ	ワ おろしゑ育てて	ヒナガ 野菜肴
2 051	会わぬ手拭ば ハ ハ	あわそにすれば トコ	夜のよがらす トコ	泣き別れ ハナ
3 043	今の隔りは ハ	隔り子がそろた コトニ 軽	隔り習わば 初	今習お コトニ 軽
4 063	かなは幾つか トリ	二十二か三か ヨヨ	いつも変わらぬ コト	二十二三 ハ
5 047	鳥はうとたか ハ	まだ夜は夜中 アガ	心静かに ハ	寝ておじゃれ ハ
6 054	船のおもてに ア アガ	女童ば乗せて	思い青年きかに ハ	かじとらそ ナガ
7 051	会わぬ手拭ば トリ	あわそにすれば ヨヨ	夜のよがらす コト	泣き別れ ハ
8 047	鳥はうとたか	まだ夜は夜中 アガ	心静かに コト	寝ておじゃれ ハ
9 046	おろしよめでたや ハ	若松さまよ コト アガ	枝も栄える コト	葉もしげる ミ
10 050	なんぼ惚れても アガ	お庭の蘇鉄 ハ	垣の外から アガ	見たばかり アガ
11 045	長い刀は ハ	差しよがごじやる アガ	後ろ下がれば アガ	前上がる アガ
12 048	汝と話せば	枕もいらぬ	互い遠いぬ	腕枕

<まけまけ> くずし 1 (東立ち雲)

13 038	東立ち雲や (東の空に立つ雲々が、互いに行き別れるのを見ると、私と恋人との行き別れも、あのようだ)	いき別れみれば ハ	かなといき別れ ハ	うれがごと ハ
14 382	うがみばど知りゆる (会うからこそ知るのだ、会わなければ知るものか、会って知っているからこそ、声をかけるのです)	うがまだな知りゅめ ハ	うかで知ちからど ハ	声やおせろ ハ
15 383	十七八ごろや (十七、八才の頃というのは、夜の暮れを待つものだ、いつ夜が暮れて、私は自由になるのだろうか)	夜ぬ暮れど待ちゆる ハ	いつが夜ぬ暮れて ハ	吾自由なりゆる ハ
16 326	かみぎよらさ照りゆる (神々しく照っている、十五夜のお月様、私の恋人が門に立ったら、曇って下さい)	お十五夜のお月 ハ	加那が門に立たば ハ	曇て給れ ハ

<まけまけ> くずし 2 (那覇朝好き衣装買)

17ad002	なかばる主や (歌意不明)	那覇朝好き衣装買 ハ	ないっしょーや ハ	那覇朝好き者ぬ ハ
18 137	女身ぬあわれ (女の身の哀れさは、糸柳のようなものだ、風の押すままに、なびくつらさよ)	糸柳心 ハ	風のおそいまま ハ	なびこしのき ハ

ブツ

<まけまけ> <ずし3 (どんどん節)>

- |   |       |      |     |     |
|---|-------|------|-----|-----|
| 19ad001 (今日や) 種下ろしょんち 餅貰れが来ッおて 餅くわくれ給れ 祝ておしよろ | キリ 舞イ | びも き | び 舞 | 伊   |
| (今日は種を下ろして、餅貰いが来た、餅を下さい、祝って差し上げましょう)          |       |      |     |     |
| 20 044 さんだまけまけ 大根だねおろせ おろし育てて 野菜肴             | ド根    |      | ウ   | 伊 舞 |
| (歌意 略)  |       |      |     |     |

4 <サンバノフェ> (1~6番)

- |                                  |       |  |       |       |
|----------------------------------|-------|--|-------|-------|
| 1 044 さんだまけまけ 大根だねおろせ おろし育てて 野菜肴 | ド根    |  | ウ     | 伊 舞   |
| 伊                                | ジュニ 舞 |  | 初     | ジュニ 舞 |
| 2 063 さまは幾つか 二十二か三か いつも変わらぬ 二十二  |       |  |       |       |
| 3 046 おろしよめでたや 若松さまよ 枝も栄える 葉も繁る  | ワサマ   |  | ウ 舞   | ハ ウ   |
| キ                                | ワ ソワ  |  | 舞 伊   | ミ     |
| 4 050 なんぼ惚れても お庭の蘇鉄 垣の外から 見たばかり  |       |  | 垣の外から |       |
| 伊 舞                              | 舞 コ   |  | 舞 伊   | 伊 舞   |
| 5 043 今の踊りは 踊り子がそろた 踊り習わば 今習お    |       |  | 踊り習わば |       |
| 伊                                | ジュニ 舞 |  | 初     | ジュニ 舞 |
| 6 063 さまは幾つか 二十二か三か いつも変わらぬ 二十二  |       |  |       |       |

5 <あじそえ>

- |  |     |   |     |     |
|--|-----|---|-----|-----|
| 1 065 あじそえの み船やよ 渡中乗りじゃしゅらばよ               | 舞   |   | 伊 舞 |     |
| (あじそえのお船が、海上に乗り出せば)                        |     |   |     |     |
| 2 073 しゅくのくわぬうりていきゅり さてくわむちつかだなや           |     |   |     |     |
| (しゅく(小魚の名)がおりてくる、手網を持って取ったら)               |     |   |     |     |
| 3 068 あの浜につけろかや 辺留浜につけろかや                  | ハ   |   | ハ 舞 |     |
| (あの浜に船を着けようか、辺留の浜につけようか)                   |     |   |     |     |
| 4 441 あらしゅげにしゅげに 吾歌あらしゅげて 互にあらしゅげて よさりしよしら | ウ 舞 |   | 舞   |     |
| (どんどん盛り上げて、私の歌を盛り上げて、互いに盛り上げて、夜通しみんなで楽しもう) |     |   |     |     |
| 5 075 一つい二つい三つい四つい五つい六つい 七つい八つい九つい十        | イ   | ウ | イ   | イ   |
| (歌意 略)                                     |     |   |     |     |
| 6 074 一合二合三合四合 八合九合 一升一合                   | 伊 舞 |   | ハ 舞 | イ 舞 |
| (歌意 略)                                     |     |   |     |     |

シエミチナガハマ

<あじそえ> <ずし1 (塩道長浜)>

- |  |          |     |   |     |
|--|----------|-----|---|-----|
| 7 442 塩道長浜に 童ぬ泣きしゅたさ うれや誰かゆい けさまつ汗肌ゆい            | シエミチナガハマ | ウ 舞 | 舞 | イ 舞 |
| (喜界の塩道長浜に童が泣いている、あれは誰か、けさまつの汗肌ゆえに(色香に惑い死んだわが子だ)) |          |     |   |     |
- \*→『大観』p.204

- 8 338 くばぬ若くばや うしゃげしゃげすいれば 吾かなたるともてい 立ちやよどみ  
 (クバの若葉が、浮き浮きと揺れていると、私の恋人と間違っ、立ち止まる)
- 9 001 おぼこれどやゆる 果報しゃげどやゆる 来年ぬ稲がなし あぶしまくら  
 (有難うございました、大変祝福を頂きました、来年の稲様は(田が畦枕になるほど)実って下さい)
- 10 435 足組みま習て 手振り振り習て かみ習てからや 間違ねらぬ  
 (足の踏み方を習い、手の振り方を習い、食べることまで習ったからには、間違えられない)

<あじそえ> くずし 2 (花緑め)

- 11 443 花染めに惚れて 童とっじかめて 花ぬさおれらば 吾こと思え  
 (花の美しさに惚れて、若妻をめとった(貴方だが)、その若さの花がしおれたら、私を思いだして)
- 12 443 花染めに惚れて 童とっじかめて 花ぬさおれらば 吾こと思え  
 (花の美しさに惚れて、若妻をめとった(貴方だが)、その若さの花がしおれたら、私を思いだして)

<あじそえ> くずし 3 (エンヤレコレ)

- 13 043 今の踊りは 踊り子がそろた 踊り習わば 今習お  
 長い刀は 差し様がござる 後ろ下がれば 前上がる
- 15 043 今の踊りは 踊り子がそろた 踊り習わば 今習お
- 16 051 ともぬ女童ば あわそにすれば 夜のよがらす なき別れ

6 <うらとみ> (1~6番)

- 1 082 宇宿踊りくわや いきゃしがや踊りゆる 右ぬはぎさでて 左もも立たし  
 (宇宿踊りは、どんなにして踊るのか、右足を先にやって、左股を立てて踊るのだ)
- 2 081 山ぬ木ぬたれて あしゃしゃぬ里うれて あしゃしゃぬ里うれて なかだぬや戻りゆめ  
 (山の木の枯れて、蟬が里に下りて、蟬が里に下りては、鳴かすには戻るまい)
- 3 173 喜界や六間切 大島七間切 徳永良部越えて 那覇ぬ地うち  
 (喜界島は六間切、大島は七間切、徳之島・沖之永良部島を越えれば、もう那覇の地内である)
- 4 435 はぎ組み習て 手振り振り習て かみ習てからや 間違ねらぬ  
 (足の踏み方を習い、手の振り方を習い、食べることまで習ったからには、間違えられない)
- 5 080 浦々や崎々 青鳩や黒鳩 青鳩や黒鳩 のきょしゅてやはなしゅて  
 (浦々崎々の、青鳩黒鳩、青鳩黒鳩が、口づけして(?)話している)
- 6 383 十七八ごろや 夜ぬ暮れど待ちゆる いちが夜ぬ暮れて 吾自由なりゆり  
 (十七、八才の頃というのは、夜の暮れを待つものだ、いつ夜が暮れて、私は自由になるのだろうか)



## 7 &lt; つじごだぬうみ &gt; (1~6番)

- 1 089 つじごだぬうみや うみ美ら香ばさ うれがみかてむんや ふとのま肉  
(ツジゴ(地名)の田のうみ(稲?)は、きれいに熟れて香わしい、そのおかずは、イルカの肉)
- 2 318 打てば打ち欲しゃや よなりしゆる鼓 寄りば寄り欲しゃや 加那がおそば  
(打つほどに打ちたくなるのは、よく鳴る鼓、寄るほどに寄りたくなるのは、加那(恋人)のそばだ)
- 3 392 これほどの遊び 組み立ててからや 夜ぬ明けて太陽ぬ あがるまでに  
(これほど盛大な遊び(踊りを)、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))
- 4 433&401 遊ばそがために 引き寄せてうしゃが いももりしよしら おむけしゃよろ  
(遊ぶために、人を引き寄せておいたが、来て下さい皆さん、お迎えしましょう)
- 5 433&401 遊ばそがために 引き寄せてうしゃが いももりしよしら おむけしゃよろ  
(遊ぶために、人を引き寄せておいたが、来て下さい皆さん、お迎えしましょう)
- 6 094 闇夜初風や 蛸すいがり取りゆり かなしゃん人や手元 わぬや手先  
(闇夜の初風に、蛸とすいがりを取る、愛しい人には箸を使わせ、自分は手掴みで食べる)

## 8 &lt; とんばら &gt;

- 1 102 トンバラの石や じすきぶす三ぶす うれが花咲きば 乱れなりゆり  
(トンバラの石(の上に)、すすきが三根生えている、その花が咲けば、(風に揺れて)乱れている)
- 2 435 はぎ組み組み習てい 手振り振り習てい かみ習てからや 間違ねらぬ  
(足の踏み方を習い、手の振り方を習い、食べることまで習ったからには、間違えられない)
- 3 383 十七八ころや 夜ぬ暮れど待ちゆる いついが夜ぬ暮れて 吾自由なりゆり  
(十七、八才の頃というのは、夜の暮れを待つものだ、いつ夜が暮れて、私は自由になるのだろうか)
- 4 395 五尺石垣に 生ゆるもと萬 はい先やねらぬ 元にかえる  
(五尺石垣に、生えている元萬は、生える(遣う)先が無い、元に戻る)
- 5 392 これほどの遊び 組み立ててからや 夜ぬ明けて太陽ぬ あがるまでに  
(これほど盛大な遊び(踊りを)、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))
- 6 188 遊ぶ夜ぬ浅さ 夜と思えば夜中 鳥うたうと思えば な夜ぬ明ける  
(遊ぶ夜の浅いことといえば、夜と思えば夜中になり、鳥が歌ったと思えば、すぐ夜が明けてしまう)
- 7 320 あたりさまだけや がじまるのやゆだ 人がさまだけや なるなよさと  
(周りの妨げにんるのは、ガジュマルの八枝、人の妨げには、ならないで恋人よ)
- 8 392 これほどぬ遊び 組み立ててからや 夜ぬ明けて太陽ぬ あがるまでに  
(これほど盛大な遊び(踊りを)、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))

## &lt;とんばら&gt;くずし1 (とんばらのくずし)

- 9 159 鼓ぐわや打てば 馬ぬ鼓ど打ちゆる まましゅぐわや打てば 吾胸打ちゅり  
(太鼓を打てば、馬皮の太鼓を打つ、継子を叩くと、私の胸を打つ)
- 10 318 打てば打ち欲しゅや よなりしゅる鼓 寄れば寄り欲しゅや 加那がおそば  
(打つほどに打ちたくなるのは、よく鳴る鼓、寄るほどに寄りたくなるのは、加那(恋人)のそばだ)
- 11 379 はる立てて美らさ あやめだる牛くわ まいたてて美らさ わじきうなり
- 12 383 十七八ごろや 夜ぬ暮れどう待ちゆる いついが夜ぬ暮れて 吾自由なりゅり  
(十七、八才の頃というのは、夜の暮れを待つものだ、いつ夜が暮れて、私は自由になるのだろうか)
- 13 159 鼓ぐわや打てば 馬ぬ鼓ど打ちゆる まましゅぐわや打てば 吾胸打ちゅりゅり  
(太鼓を打てば、馬皮の太鼓を打つ、継子を叩くと、私の胸を打つ)
- 14 440 歌かわせかわせ 節かわせかわせ 歌ぬかわればど 節もかわる  
(歌(曲)を変えろ、節(旋律)を変えろ、曲の変わり目には、旋律も変わる)

## &lt;とんばら&gt;くずし2 (和宿すり節)

- 15 ad007 気張て摺れ摺れ姉妹きゅ 摺りばど うまいしゅ喰まらしゅんど 何石の米や摺りばど 減なりゅんど  
(頑張って摺れ娘さん達、摺ったらうまい御飯(?)が食べられる、何石もの米を摺れば、減るよ)
- 16 001 おほこれどやゆる 果報しゅげどやゆる 来年ぬ稲がなし あぶしまくら  
(有難うございました、大変祝福を頂きました、来年の稲様は(田が畦枕になるほど)実って下さい)
- 17 316 歌やわがやくぬ 気ながめどなりゅる しょしら気ながめど なりがしゅよろ  
(歌は私の、気慰めとなる、貴方達私達の気慰めと、なるでしょうか)
- 18 101 あさましきゅ浮世 物思てきゅしゅり 言しゅり語らたり するが浮世  
(浅ましい浮世(世間)のことに、悩んでどうするか、話したり語ったり、するのが浮世というもの)

## ○ &lt;しゅんかねくわ&gt;

- 1 109 しゅんかねくわが節や 吾がくなちうしゅが 三味線もちいもれ つけておせろ  
(しゅんかねの節は、私がこなしておくから、三味線を持っていらっしゅい、歌をつけて上げましょう)
- 2 435 はぎ組みば習て 手振り振り習て かみ習てからや 間違ねらぬ  
(足の踏み方を習い、手の振り方を習い、食べることまで習ったからには、間違えられない)
- 3 371 今日やおせつれて 思ごとやねらぬ あしゅじ面影ぬ たたんばきゅしゅり  
(今日一緒に連れ集まって、遊んでいる時は思うことはないが、明日になり面影が、立ったらどうしよう)  
(別れた後、あの人の面影を思出して心残りしたら、どうすればいいのか)
- 4 173 喜界や六間切 大島七間切 徳永良部越えて 那覇ぬ地うち  
(喜界島は六間切、大島は七間切、徳之島・沖之永良部島を越えれば、もう那覇の地内である)

- 5 326 かみぎよらさ照りゆる お十五夜のお月 加那が門に立たば 曇て給れ  
 (神々しく照っている、十五夜のお月様、私の恋人が門に立ったら、曇って下さい)
- 6 392 これほどの遊び 組み立ててからや 夜ぬ明けて太陽ぬ あがるまでに  
 (これほど盛大な遊び(踊りを)、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))
- 7 443 花染めに惚れて 童とじかむえて 花のさおれらば 吾こと思え  
 (花の美しさに惚れて、若妻をめとった(貴方だが)、その若さの花がしおれたら、私を思いだして)
- 8 382 うがまばど知りゆる うがまだな知りゆめ うかで知ちからや 声やおせろ  
 (会うからこそ知るのだ、会わなければ知るものか、会って知っているからこそ、声をかけるのです)
- 9 378 年やとていきゅり 先や定まらぬ 荒海に浮しゆる 舟ぬごとに  
 (年はとていき、先のことは定まらない、まるで荒波に浮く、船のようだ)
- 10 371 おせつれて行きゅり 思ごとやねらぬ あさじ面影ぬ たたばきゅしゅり  
 (一緒に連れいって、遊んでいる時は思うことはないが、明日になり面影が、立ったらどうしよう)  
 (別れた後、あの人の面影を思出して心残りしたら、どうすればいいのか)
- 11 415 水のうてぐちや 品々ぬゆりゅり 女童ゆりどろや 青年ぬゆりゅり  
 (水の落口には、様々なものが流れて寄ってくる、娘達の集まる所には、青年達が寄ってくる)
- 12ad008 遊べたる青年や さく探めてとまろ 吾ぬや加那座敷 探めて泊まぬ  
 (ad008=うすじはる水や) (遊ぶ青年は(ad008山の頂上から落ちてくる水は)、谷間を探して流れていく、私は恋人の寝間を、探して泊まろう)

<しゅんかぬくわ> <ずし1 (しゅんかぬくわのくずし)>

- 13 318 打てば打ち欲しゅや よなりしゅる鼓 寄れば寄り欲しゅや 加那がおそば  
 (打つほどに打ちたくなるのは、よく鳴る鼓、寄るほどに寄りたくなるのは、加那(恋人)のそばだ)
- 14 160 島一つあれば 道いきゃてみりゅり 島別れあれば 思たばかり  
 (恋人とシマ(村)が一緒であれば、道で行き逢えるが、シマが別れていけば、互いに心で思うばかり)
- 15 433 遊ばそがために 引き寄せてうしゅが 一人寄せ寄せと 遊で給れ  
 (遊ぶために、人を引き寄せておいたが、一人々々寄せ寄せ(教え教え?)、遊んで下さい)
- 16 331 遊びそびならて きゃしが別れりゅる 泣く泣くの別れ しらんばきゅしゅり  
 (遊び遊んだら、どんなにして別れよう、泣く泣くの辛い別れを、しなければどうしよう)

1 0 <ねんごろじゅ>

- 1 130 さげどぐ忘れた ねんごろじゅが宿に たばこのむ時 思じゅしゅが  
 (提げ徳利を忘れた、懇ろの女(愛人)の宿に、煙草をのむ時、思いだした)
- 2 130 扇忘れた ねんごろじゅが宿に 汗ぬはる時 思じゅしゅが  
 (扇を忘れた、懇ろの女(愛人)の宿に、暑くて汗の出た時、思いだした)

- 3 371 今日やおせつれて 思ごとやねらぬ あさじ面影ぬ たたばきやしゅり  
 (今日一緒に連れ集まって、遊んでいる時は思うことはないが、明日になり面影が、立ったらどうしよう)  
 (別れた後、あの人の面影を思出して心残りしたら、どうすればいいのか)
- 4 160 馬一つあれば 遣いきゃてみりゅり 馬別れなれば 思たばかり  
 (恋人とシマ(村)が一緒にあれば、道で行き逢えるが、シマが別れていけば、互いに心で思うばかり)
- 5 326 かみぎよらさ照りゅる お十五夜ぬお月 加那が門に立たば 曇て給れ  
 (神々しく照っている、十五夜のお月様、私の恋人が門に立ったら、曇って下さい)
- 6 392 これほどぬ遊び 組み立ててからや 夜ぬ明けてい太陽ぬ あがるまでに  
 (これほど盛大な遊び(踊りを)、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))
- 7 383 十七八ごろや 夜ぬ暮れどち待ちゅる いついが夜ぬ暮れて 吾自由なりゅり  
 (十七、八才の頃というのは、夜の暮れを待つものだ、いつ夜が暮れて、私は自由になるのだろうか)
- 8 363 うちだしゅるみ舟 よしでよしまらぬ いもしもりしよしら おもけしゅよろ  
 (沖へこぎ出す舟、惜しんでも惜しまれない、行ってらっしゃい貴方、またお迎えしましょう)  
 \*『大成』p.490参照

<ねんごろじゅ>くずし1 (芦花部一番)

- 9 134 芦花部一番や うんとのちのばあ加那 くばや一番や 実久くばや  
 (芦花部で一番の美人は、上殿地のばあ加那、クバの一番は 実久のクバだ)
- 10 338 くばぬ若くばや うしゃげしゃげしりば 吾かなたるともてい 立ちやよどみ  
 (クバの若葉が、浮き浮きと揺れていると、私の恋人と間違っ、立ち止まる)
- 11 038 東立雲ぬ いき別れみりば かなといき別れ うりがごとに  
 (東の空に立つ雲々が、互に行き別れるのを見ると、私と恋人との行き別れも、あのようだ)
- 12 326 かしきよらさ照りゅる お十五夜ぬお月 加那が門に立たば 曇てい給れ  
 (こんなにきれいに照っている、十五夜のお月様、私の恋人が門に立ったら、曇って下さい)
- 13 330 いこいこにすれば あとめささやしが うろうろにすれば わどやきやしゅり  
 (別れて行こうとすれば、心残りするが、留まっていたなら、わが身はどうすればいいのか)
- 14 037 白雲やまさり 風連れていきゅり 吾のやかなつれて いくがしのき  
 (空の白雲は勝っている(羨ましい)、風を連れ空をゆく、私は恋人を連れて、いくその辛さよ)

<ねんごろじゅ>くずし2 (うんにゃだる)

- 15 ad009 うんにゃだる痴者 乳これ子ばはん投げて 赤木名かち 殿刀自なりがはりくらて  
 (うんにゃだるは馬鹿者だ、乳飲み子を振り捨てて、赤木名まで、役人の馬妻になりに行きやがって!)
- 16ad003 赤牛の角曲がりゃ 死にば焼し喰みゅり 南蛮がさかきば ぬ役立ちゅり  
 (角の曲がった赤牛は、死ねば焼いて食べられるが、梅毒にかかれば、何の役に立とうか)

- 17 383 十七八ごろや 夜ぬ暮れどち待ちゅり いついが夜ぬ暮れてい 吾自由なりゅり  
(十七、八才の頃というのは、夜の暮れを待つものだ、いつ夜が暮れて、私は自由になるのだろうか)
- 18 392 これほどぬ遊び 組み立てていからや 夜ぬ明けて太陽ぬ あがるまでに  
(これほど盛大な遊び(踊りを)、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))

## ニリ イトナキ

## 1 1 &lt;庭ぬ糸柳&gt; (1~6番)

- 1 136 庭ぬ糸柳 風に誘われて 風に誘われて なびこしのき  
(庭ぬ糸柳は、風に誘われて 風の意のままに、なびく辛さよ)
- 2 435 足組みば習て 手振り振り習て かみ習ていからや 間違ねらぬ  
(足の踏み方を習い、手の振り方を習い、食べることまで習ったからには、間違えられない)
- 3 186 うたやわがやくぬ 気ながめどちなりゅる しょしら気ながめど ながりがしゃよろ  
(歌は私の、気慰みとなる、貴方達私達の気慰みに、なるでしょうか)
- 4 166 思てさえおれば 後先どなりゅる 節や水車 巡りあゆる  
(思てさえいれば、ただ後先のこと、時節は水車のように、またきつと巡り逢える)
- 5 167 節や水車 巡りあゆれども 加那が節吾節 回し苦しゅ  
(この踊りの節は水車のように、毎年また巡ってくるが、愛しい女と私の逢う節は巡り難いことよ)
- 6 326 かみぎょらさ照りゅる お十五夜のお月 加那が門に立たば 曇て給れ  
(神々しく照っている、十五夜のお月様、私の恋人が門に立ったら、曇って下さい)

## ヒト ヨメゾ

## 1 2 &lt;人が嫁女&gt; (1~6番)

- 1 142 人が嫁女や 枯木ぬ花よ すいがろすいがろに おとろしや  
(人の嫁というのは、枯木の花だ、すがろうにも、恐ろしい)
- 2 143 枯木くだめとて なり木ひきよせて うてらばも互に さとと一道路  
(枯木を足場にして、実のなった木を引き寄せて、落ちたら互いに運命は、恋人と一緒だ) → 『大観』p.101
- 3 004 今日ぬ誇らしゅや 何時よりもまさり 何時も今日のごとに あらちたぼれ  
(今日の日の誇らしさは、何時よりも勝っている、何時も今日のごとく、あらせて下さい)
- 4 435 はぎ組み組み習て 手振り振り習て かみ習てからや 間違ねらぬ  
(足の踏み方を習い、手の振り方を習い、食べることまで習ったからには、間違えられない)
- 5 331 遊びそびならて きゃしが別れりゅる 泣く泣くぬ別れ すいらんばきゅしゅり  
(遊び遊んだら、どんなにして別れよう、泣く泣くの辛い別れを、しなればどうしよう)
- 6 332 別れてやいきゅり ぬが形見うきゅり 汗はだぬ手拭 うれど形見  
(愛人と別れて行くのに、何を形見においてゆくのか、汗肌の手拭、それが形見だ)

1 3 <うりゃげどり> (1~4番)

- 1 159 鼓ぐわや打てば 馬ぬ鼓ど打ちゆる まましゃぐわや打てば 吾胸打ちゆる  
 (太鼓を打てば、馬皮の太鼓を打つ、轆子を叩くと、私の胸を打つ)
- 2 186 うたやわがやくぬ 気ながめどうなりゆる しょしら気ながめえぬ なりがしゃゆる  
 (歌は私の、気慰みとなる、貴方達私達の気慰みに、なるでしょうか)
- 3 371 今日やおせつれて 思ごとやねらぬ あさじ面影ぬ たたんばきゃしゅり  
 (今日一緒に連れ集まって、遊んでいる時は思うことはないが、明日になり面影が、立ったらどうしよう)  
 (別れた後、あの人の面影を思出して心残りしたら、どうすればいいのか)
- 4 392 これほどぬ遊び 組み立てていからや 夜ぬ明けてい太陽ぬ あがるまでに  
 (これほど盛大な遊び(踊りを)、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))

1 4 <赤木名観音堂> (1~6番)

- 1 156 赤木名観音堂や 伊津部かちなおろ なおろなおろに な音ばかり  
 (赤木名観音堂は、伊津部へ移ろうという、移ろう移ろうというのに、噂ばかりで移らない)
- 2 159 鼓ぐわや打てば 馬ぬ鼓ど打ちゆる まましゃぐわや打てば 吾胸打ちゆる  
 (太鼓を打てば、馬皮の太鼓を打つ、轆子を叩くと、私の胸を打つ)
- 3 044 さんだまけまけ 大根だねおろせ おろし育てて 野菜着  
 (さんだまけまけ)
- 4 043 今の踊りは 踊り子がそろた 踊り習わば 今習お  
 (今の踊りは)
- 5 051 会わの手拭ば あわそにすいれば 夜のよがらす 泣き別れ  
 (会わの手拭ば)
- 6 019 いしめて歌すいれば ももだるさやすいが で吾きゃほいたてて 踊るとよも  
 (座って歌えば、腰がだるいが、さあ立ち上がって、踊って盛り上がろう)

1 5 <やんごらぬいぶ>

- 1 163 屋仁川のいぶや いどかけてつりゅり 屋仁の女童や さでしつりゅり  
 (屋仁川のいぶ(ハゼの一種)は、餌を掛けて釣るが、屋仁の娘は、さで(魚をすくう道具)で釣る)
- 2 186 歌やわがやくの 気ながめどなりゅり しょしら気ながめどう なりがしゃよろ  
 (歌は私の、気慰みとなる、貴方達私達の気慰みに、なるでしょうか)
- 3 392 これほどの遊び 組み立てていからや 夜ぬ明けてい太陽ぬ あがるまでに  
 (これほど盛大な遊び(踊りを)、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))
- 4 435 足組み組み習て 手振り振り習てい かみ習ていからや 間違ねらぬ  
 (足の踏み方を習い、手の振り方を習い、食べることまで習ったからには、間違えられない)

- 5 020 笠利きよらじまや よそ島とぅ変わて いじたちゅるまぎり あらさきよらさ  
 (この笠利の美しい集落は、他集落と違て、出で立っている大勢の人々が、荒々しくも美しい)
- 6 196 うちわもただなや この夏や暮らそ 吾加那むただなや 暮しならぬ  
 (うちわが無いと、暑くてこの夏は暮らせない、私は恋人がいないと、とても暮らせない)
- 7 173 喜界や六間切 大島七間切 徳永良部越えて 那覇ぬ地うち  
 (喜界島は六間切、大島は七間切、徳之島・沖之永良部島を越えれば、もう那覇の地内である)
- 8 037 白雲やまさり 風連れていきゅり 吾のや加那連れて いくがしのき  
 (空の白雲は勝っている(羨ましい)、風を連れ空をゆく、私は恋人を連れて、いくその辛さよ)
- 9 329 みさき潮ぬあらさ 汗はらしふぎゅり 加那がくとぅ思て 一やほ二やほ  
 (岬の潮の激しさに、汗をかきながら(舟を)漕ぐ、恋人の事を思て、一漕二漕漕ぐのだ)
- 10 173 喜界や六間切 大島七間切 徳永良部越えて 那覇ぬ地うち  
 (喜界島は六間切、大島は七間切、徳之島・沖之永良部島を越えれば、もう那覇の地内である)
- 11 435 足組みば習て 手振り振り習てい かみ習てからや 間違ねらぬ  
 (足の踏み方を習い、手の振り方を習い、食べることまで習ったからには、間違えられない)
- 12 330 いこいこにすれば あとめささやしが うろうろにすれば 吾どやきゅしゅり  
 (別れて行こうとすれば、心残りするが、留まっていたなら、わが身はどうすればいいのか)

-----  
 キキヤ ワソ  
 1 6 <喜界や湾どまり> (1~6番)

- 1 172 喜界や湾泊り 潮がりととりゅり 水がりととりゅり 山田平田  
 (喜界島の湾の泊は、潮を焦がれ取る、水を焦がれるのは、山田平田である)  
 \*本来の歌形では、「潮」と「水」が逆である。
- 2 173 喜界や六間切 大島七間切 徳永良部越えて 那覇ぬ地うち  
 (喜界島は六間切、大島は七間切、徳之島・沖之永良部島を越えれば、もう那覇の地内である)
- 3 392 これほどぬ遊び 組み立ててからや 夜ぬ明けてい太陽ぬ あがるまでに  
 (これほど盛大な遊び(踊り)を)、組み立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))
- 4 435 はぎ組み組み習て 手振り振り習て かみ習ていからや 間違ねらぬ  
 (足の踏み方を習い、手の振り方を習い、食べることまで習ったからには、間違えられない)
- 5 433 遊ばそがために 引き寄せてうしゃが 一人寄せ寄せと 遊で給れ  
 (遊ぶために、人を引き寄せておいたが、一人々々寄せ寄せ(教え教え?)、遊んで下さい)
- 6 331 遊びそびならて きゃしが別れりゅる 泣く泣くぬ別れ しらんばきゅしゅり  
 (遊び遊んだら、どんなにして別れよう、泣く泣くの辛い別れを、しなければどうしよう)

1 7 <ヒヤルガヨイソレ>

- 1 318 打てば打ち欲しゃや よなりしゆる鼓 寄れば寄り欲しゃや 加那がおそば  
 (打つほどに打ちたくなるのは、よく鳴る鼓、寄るほどに寄りたくなるのは、加那(恋人)のそばだ)
- 2 318 打てば打ち欲しゃや よなりしゆる鼓 寄れば寄り欲しゃや 加那がおそば  
 (打つほどに打ちたくなるのは、よく鳴る鼓、寄るほどに寄りたくなるのは、加那(恋人)のそばだ)
- 3 329 みさき潮ぬあらさ 汗はらしふぎゅり 加那がくとう思て 一やほ二やほ  
 (岬の潮の激しさに、汗をかきながら(舟を)漕ぐ、恋人の事を思って、一棹二棹漕ぐのだ)
- 4 328 雨やどいどいと かきならし降りゅり きもちゃげぬ加那や 濡れていもり  
 (雨はドイドイト、屋根を烈しく鳴らして降っている、そこへ愛しい恋人は、濡れてやってきた)
- 5 173 喜界や六間切 大島七間切 徳永良部越えて 那覇ぬ地うち  
 (喜界島は六間切、大島は七間切、徳之島・沖之永良部島を越えれば、もう那覇の地内である)
- 6 441 あらしゃげにしゃげに 吾歌あらしゃげに 互にあらしゃげて よさりしよしら  
 (どンドン盛り上げて、私の歌を盛り上げて、互いに盛り上げて、夜通しみんなで楽しもう)
- 7 326 かみぎよらさ照りゆる お十五夜ぬお月 加那が門に立たば 曇て給れ  
 (神々しく照っている、十五夜のお月様、私の恋人が門に立ったら、曇って下さい)
- 8 338 くばぬ若くばや うしゃげしゃげすりば 吾かなたるともてい 立ちやよどみ  
 (クバの若葉が、浮き浮きと揺れていると、私の恋人と間違えて、立ち止まる)

<ヒヤルガヨイソレ>くずし1 (ヒヤルガフエ)

- 9 199 なつか声ききば 息や抜かれらぬ とてやあらし声 ききゃし給れ  
 (懐かしい声を聞けば、息を抜くわけにはいかない、もっといい(荒々しい)声を、聞かせて下さい)
- 10 392 これほどぬ遊び 組み立てていからや 夜ぬ明けて太陽ぬ あがるまでに  
 (これほど盛大な遊び(踊りを)、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))
- 11 441 あらしゃげにしゃげに 吾歌あらしゃげに 互にあらしゃげて よさりしよしら  
 (どンドン盛り上げて、私の歌を盛り上げて、互いに盛り上げて、夜通しみんなで楽しもう)
- 12 326 かみぎよらさ照りゆる お十五夜ぬお月 加那が門に立たば 曇て給れ  
 (神々しく照っている、十五夜のお月様、私の恋人が門に立ったら、曇って下さい)

<ヒヤルガヨイソレ>くずし2 (なかばるしよーたや)

- 13ad010 なかばるしよーたや あずきいれてなかばる うりがしよーたるやっくわじや  
 さわい子や大和 まちじよ子や大島  
 (歌意 不明)
- 14 137 女身のあわれ 糸柳ごころ 風のおそいまま なびこしのき  
 (女の身の哀れさは、糸柳のようなものだ、風の押すままに、なびくつらさよ)



## &lt;ヒヤルガヨイソレ&gt; &lt;ずし3 (ヤーヨヌフェ)&gt;

- 15 199 なつか声ききば 息や抜かれらぬ とてやあらし声 ききゃし給れ  
 (懐かしい声を聞けば、息を抜くわけにはいかない、もっといい(荒々しい)声を、聞かせて下さい)
- 16 383 十七八ごろや 夜の暮れど待ちゆる いついが夜の暮れて 吾自由なりゆり  
 (十七、八才の頃というのは、夜の暮れを待つものだ、いつ夜が暮れて、私は自由になるのだろうか)

## ミトナリミズ

## 1 8 &lt;港川水&gt; (1~6番)

- 1 180 港川水や うしゅいきゃて戻ろ 吾のや加那いきゃて 泣しど戻ろ  
 (港川水は、潮が行って戻る、私は恋人が行ってしまい、泣いて戻る)
- 2 435 はぎ組みば習て 手振り振り習て かみ習てからや 間違ねらぬ  
 (足の踏み方を習い、手の振り方を習い、食べることで習ったからには、間違えられない)
- 3 004 今日の誇らしや 何時よりもまさり 何時もこのごに あらち給れ  
 (今日の日の誇らしさは、何時よりも勝っている、何時も今日のごとく、あらせて下さい)
- 4 162 島やだぬ島も 変わるぎやねらぬ 水にひかされて ことばかわる  
 (シマ(集落)はどこも、変わるものではない、ただ飲む水に影響されて、言葉が変わるのだ)
- 5 392 これほどの遊び 組み立てていからや 夜ぬ明けて太陽ぬ あがるまでに  
 (これほど盛大な遊び(踊りを)、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))
- 6 415 水ぬうてぐちや 品々ぬゆりゆり 女童ゆりどろや 青年ぬゆりゆり  
 (水の落口には、様々なものが流れて寄ってくる、娘達の集まる場所には、青年達が寄ってくる)

## 1 9 &lt;ヤサレノトイトイ&gt; (1~6番)

- 1 180 港川水や うしゅいきゃて戻ろ 吾のや加那いきゃて 泣しど戻ろ  
 (港川水は、潮が行って戻る、私は恋人が行ってしまい、泣いて戻る)
- 2 385 うちはらて咲きゆる 菊ぬ花みれば 寄ていきゆる年ぬ 若くなりゆり  
 (うちはらって(?)咲く、菊の花を見れば、寄っていく歳も、若返るようだ) →『大観』p.102
- 3 371 今日やおせつゑれてい 思ごとやねらぬ あさじ面影ぬ たたばきゃしゆり  
 (今日一緒に連れ集まって、遊んでいる時は思うことはないが、明日になり面影が、立ったらどうしよう)  
 (別れた後、あの人の面影を思出して心残りしたら、どうすればいいのか)
- 4 372 あさじ面影ぬ たてごとや知らぬ 夜さりゆやまくま 遊で給れ  
 (明日になり、面影が残っても知りません(構いません)、夜通し、遊んで下さい)
- 5 330 いきよいきよにすれば あとめささやしが うろろろにすれば 吾どやきゃしゆり  
 (別れて行こうとすれば、心残りするが、留まっていたなら、わが身はどうすればいいのか)

6 326 かみぎよらさ照りゆる お十五夜ぬお月 加那が門に立たば 曇てい給れ  
 (神々しく照っている、十五夜のお月様、私の恋人が門に立ったら、曇って下さい)

2 0 <牛やだり> (1~6番)

- 1 318 打ちば打ち欲しゃや ゆなりしゆる鼓 寄りば寄り欲しゃや 加那がおそば  
 (打つほどに打ちたくなるのは、よく鳴る鼓、寄るほどに寄りたくなるのは、加那(恋人)のそばだ)
- 2 186 歌やわがやくの 気ながめどなりゆる しょしら気ながめど なりがしゃよろ  
 (歌は私の、気慰みとなる、貴方達私達の気慰みに、なるでしょうか)
- 3 371 今日やおせつれて 思ごとやねらぬ あさじ面影ぬ たたばきゃしゅり  
 (今日一緒に連れ集まって、遊んでいる時は思うことはないが、明日になり面影が、立ったらどうしよう  
 (別れた後、あの人の面影を思出して心残りしたら、どうすればいいのか))
- 4 371 おせつゑれて行きゅり 思ごとやねらぬ あさじ面影ぬ たたばきゃしゅり  
 (一緒に連れ行って、遊んでいる時は思うことはないが、明日になり面影が、立ったらどうしよう)
- 5 001 おぼこれどやゆる 果報しゃげどやゆる 来年ぬ稲がなし あぶしまくら  
 (有難うございました、大変祝福を頂きました、来年の稲様は(田が畦枕になるほど)実って下さい)
- 6 101 あさましきゅ浮世 物思ていきゃしゅり 言しゃり語らたり するが浮世  
 (浅ましい浮世(世間)のことに、悩んでどうするか、話したり語ったり、するのが浮世というもの)

2 1 <あがむら>

- 1 190 あがんもらあかくわ ゆきむらのはぐき 気病んめにあてど 呼ばしなだな  
 (あがむらのあかくわは、雪のような齒をしている、気病み(恋患い)になったら、呼ばしてみようか)
- 2 371 今日やおせつれて 思ごとやねらぬ あさに面影の たたばきゃしゅり  
 (今日一緒に連れ集まって、遊んでいる時は思うことはないが、明日になり面影が、立ったらどうしよう  
 (別れた後、あの人の面影を思出して心残りしたら、どうすればいいのか))
- 3 372 あさじ面影ぬ たてごとや知らじ 夜さりゆやまくま 遊で給れ  
 (明日になり、面影が残っても知りません(構いません)、夜通し、遊んで下さい)
- 4 392 これほどの遊び 組み立てていからや 夜ぬ明けて太陽ぬ あがるまでに  
 (これほど盛大な遊び(踊り)を、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))
- 5 188 遊ぶ夜ぬ浅さ 夜と思えば夜中 鳥うたうと思えば な夜ぬ明けろ  
 (遊ぶ夜の浅いことといえば、夜と思えば夜中になり、鳥が歌ったと思えば、すぐ夜が明けてしまう)
- 6 189 鳥うたてからや 枕とってぬしゅり 吾家ぬきどぐちに あわれ話そ  
 (鳥が歌ったからといって、枕を取って寝てどうするのだ、私の家の木戸口で、しみじみ話しましょう)

- 7 392 これほどぬ遊び 組み立ててからや 夜ぬ明けて太陽ぬ あがるまでに  
(これほど盛大な遊び(踊りを)、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))
- 8 431&317 新節も行きゅり 柴差も行きゅり 遊び好き吾ぬや ましょやねらぬ  
(アラセツ踊りも終わった、シバサシ踊りも終わった、遊び好きな私は、することがない)
- 9 383 十七八ごろや 夜ぬ暮れどぅ待ちゅる いついが夜ぬ暮れて 吾自由なりゅり  
(十七、八才の頃というのは、夜の暮れを待つものだ、いつ夜が暮れて、私は自由になるのだろうか)
- 10 001 おぼこりどやゆる 果報さげどやゆる 来年の稲がなし あぶしまくら  
(有難うございました、大変祝福を頂きました、来年の稲様は(田が唾枕になるほど)実って下さい)

マガ ヲカ  
2 2 < 曲りょ高ちじ > (1~6番)

- 1 197 曲がりょ高ちじに ちょうちんぐわば灯し うれが明がりし 忍でいもれ  
(曲がりょ高辻に、提灯を灯すから、その明りを目印に、忍んで来て下さい)
- 2 328 雨やどいどいと かきならし降りゅり きもちげぬ加那や 濡れていもれ  
(雨はドイドイト、屋根を烈しく鳴らして降っている、そこへ愛しい恋人は、濡れてやってきた)
- 3 392 これほどぬ遊び 組み立ててからや 夜ぬ明けて太陽ぬ あがるまでに  
(これほど盛大な遊び(踊りを)、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))
- 4 あと降らば降らで 先降らば降らで なま降りゅるはれや (以下不明)
- 5 435 はぎ組みば習て 手振り振り習て かみ習てからや 間違ねらぬ  
(足の踏み方を習い、手の振り方を習い、食べることまで習ったからには、間違えられない)
- 6 101 あさましきゅ浮世 物思てきゅしゅり 言しゅり語らたり すいるが浮世よ  
(浅ましい浮世(世間)のことに、悩んでどうするか、話したり語ったり、するのが浮世というもの)

2 3 < かんてく > (1~8番) 訳は『大観』参照 (p. 307~311)

- 1 202 かんてくおめなべ ことつえげの煙草 又もことつえげぬ もつれ煙草  
(かんてくおめなべ(人名)の、言づての煙草、またも言づての、(恋の)もつれ煙草)
- 2 203 もつれ草取りゅに もつれろにすいれば 恋ぬやりやしゅま しげく給れ  
(203=えんぬねでだなし もつれぐるしゅ)  
(203 もつれ草をとるように、睦み合おうとするが、縁が無いのか、もつれられない)
- 3 204 恋ぬやりやしゅま ぬかばひとさらめ うちひらいひらい ぬかばきょらく  
(204=縁と玉黄金)  
(204 夫婦の仲も、別れてしまえば他人だが、仲睦まじく、別れるのがきれいというもの)
- 4 205 うちひらいひらい ぬしだもそいきゅり 恋ぬやりやしゅま しげく給れ  
(仲睦まじく、別れて行くが、恋の絆の手紙を、繋ぐ下さい)

- |       |  |          |          |  |          |
|-------|--|----------|----------|--|----------|
|       | ジイ   |          | ワ        |  | フウ       |
| 5 206 | 恋ぬやりやしゅま   | しげくすろすれば | 吾家にてりでりと |  | ありこ人や居らぬ |
|       | (恋の手紙を、繁くしようとすれば、私の家との、人の便りがありません)                 |          |          |  |          |
|       | ワ  | ワ フ      | ト        |  | ト        |
| 6 207 | 吾家にてりでりと   | 歩こ人やうらぬ  | 思わだなしちゅて |  | ことば情け    |
|       | (207=汝家に) (207貴方の家との間に、人の便りはない(なんて)、心で思わないで、口先だけだ) |          |          |  |          |
|       | ト  | ジイ       | ト ヒ      |  | ヒ        |
| 7 208 | 思わだなしちゅて   | 恋ぬしらりよめ  | 思たる節や    |  | 声やおせろ    |
|       | (心で思わないで、恋が出来るだろうか、心で思った時こそ、声をお掛けするのです)            |          |          |  |          |
|       | ト  | ト        | ト        |  | ト        |
| 8 209 | 思わばも互に   | そらさばも互に  | ましりぐち互に  |  | 思て給れ     |
|       | (思うのも、外すのもお互い次第です、どうか互いに、愛し合っていてください)              |          |          |  |          |

2 4 <めぐりあんど> (1~6番)

- |       |  |            |            |   |         |
|-------|--|------------|------------|---|---------|
|       | ワ  | リ          | ヨ          | フ |         |
| 1 392 | これほどぬ遊び  | 組み立てていからや  | 夜の明けてい太陽ぬ  |   | あがるまでに  |
|       | (これほど盛大な遊び(踊りを)、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))  |            |            |   |         |
|       | ジツチ  | エ          | ヨ          |   | リ       |
| 2 383 | 十七八ごろや   | 夜ぬ暮れどう待ちゅる | いついが夜ぬ暮りてい |   | 吾自由なりゅり |
|       | (十七、八才の頃というのは、夜の暮れを待つものだ、いつ夜が暮れて、私は自由になるのだろうか) |            |            |   |         |
|       | ジイ   | ト          | ゲイ         |   | ト       |
| 3 199 | なつか声きけば  | 息や抜かれらぬ    | とてやあらし声    |   | きまゃし給れ  |
|       | (懐かしい声を聞けば、息を抜くわけにはいかない、もっといい(荒々しい)声を、聞かせて下さい) |            |            |   |         |
|       | ワ  | リ          | ヨ          | フ |         |
| 4 392 | これほどぬ遊び  | 組み立てていからや  | 夜の明けてい太陽ぬ  |   | あがるまでに  |
|       | (これほど盛大な遊び(踊りを)、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))  |            |            |   |         |
|       | ワ  | ワ          | ヨ          |   | リ       |
| 5 159 | 鼓ぐゅや打てば  | 馬ぬ鼓ど打ちゅる   | まましゅぐゅや打てば |   | 吾胸打ちゅる  |
|       | (太鼓を打てば、馬皮の太鼓を打つ、鞭子を叩くと、私の胸を打つ)                |            |            |   |         |
|       | ワ  | ワ          | ヨ          |   | ト       |
| 6 318 | 打てば打ち欲しゅや                                      | よなりしゅる鼓    | 寄りば寄り欲しゅや  |   | 加那がおそば  |
|       | (打つほどに打ちたくなるのは、よく鳴る鼓、寄るほどに寄りたくなるのは、加那(恋人)のそばだ) |            |            |   |         |

2 5 <いそ踊り>

- |       |  |            |           |  |         |
|-------|--|------------|-----------|--|---------|
|       | ワ  |            | ワ         |  | ト       |
| 1 019 | いしゅて歌すいれば                                      | ももだるさやすいが  | で吾きゅほいたて  |  | 踊るとよも   |
|       | (座って歌えば、腿がだるいが、さあ立ち上がって、踊って盛り上がろう)             |            |           |  |         |
|       | ワ  | ワ          | ワ         |  | ワ       |
| 2 435 | 足組み組み習てい                                       | 手振り振り習て    | かみ習ていからや  |  | 間違ねらぬ   |
|       | (足の踏み方を習い、手の振り方を習い、食べることまで習ったからには、間違えられない)     |            |           |  |         |
|       | ワ  | ワ          | ワ         |  | ワ       |
| 3 435 | 足組みば習てい  | 手振り振り習て    | かみ習てからや   |  | 間違ねらぬ   |
|       | (足の踏み方を習い、手の振り方を習い、食べることまで習ったからには、間違えられない)     |            |           |  |         |
|       | ジツチ  | ヨ          | ヨ         |  | リ       |
| 4 383 | 十七八ごろや   | 夜ぬ暮れどう待ちゅる | いついが夜ぬ暮れて |  | 吾自由なりゅり |
|       | (十七、八才の頃というのは、夜の暮れを待つものだ、いつ夜が暮れて、私は自由になるのだろうか) |            |           |  |         |

- |       |  |           |            |        |
|-------|--|-----------|------------|--------|
|       | ツミウ  | ウコウ       | ウ          | ウミウ    |
| 5 159 | 鼓ぐわや打てば  | 馬ぬ鼓ど打ちゆる  | まましゅぐわや打てば | 吾胸打ちゆる |
|       | (太鼓を打てば、馬皮の太鼓を打つ、継子を叩くと、私の胸を打つ)                |           |            |        |
|       | ツ  | クク        | ヨア         | ダ      |
| 6 392 | これほどの遊び  | 組み立てていからや | 夜ぬ明けてい太陽ぬ  | あがるまでに |
|       | (これほど盛大な遊び(踊りを)、組立てたからには、夜が明けて太陽が上がるまで(楽しもう))  |           |            |        |
|       | カ  |           | ニ          |        |
| 7 001 | おぼこれどやゆる                                       | 果報しゃげどやゆる | 来年ぬ稲がなし    | あぶしまくら |
|       | (有難うございました、大変祝福を頂きました、来年の稲様は(田が畦枕になるほど)実って下さい) |           |            |        |

## 資料3 八月踊り歌演唱楽譜 目次

- ・楽譜表記方法に関してはほぼ資料2に準じるが、記譜音高は今後の旋律比較のために、原則的にドレミソラドの音列に移調している。各曲において実音と記譜との音程を記している。
- ・K17(エンヤレコレ)までの演唱は大茂基六氏。録音場所は、大茂氏宅。

曲名	演唱日時等
2<祝つけ>	1987年10月3日
K1(あらしゃげ)	"
3<まけまけ>	"
4<サンバノフェ>	1987年10月6日
5<あじそえ>	1987年10月3日
6<うらとみ>	"
8<とんばら>	"
9<しゅんかねくわ>	"
10<ねんごろじゅ>	"
11<庭の糸柳>	"
12<人が嫁女>	"
13<うりゃげどり>	"
14<赤木名観音堂>	"
15<やんごらぬいぶ>	"
16<喜界や湾どまり>	"
17<ヒヤルガヨイソレ>	"
18<港川水>	"
19<ヤサレノトイトイ>	"
20<牛やだり>	"
21<あがんむら>	"
22<曲りょ高ちじ>	"
25<いそ踊り>	1987年10月6日
K6(うんにゃだる)	1987年10月3日
K8(なかばるしょーたや)	"
K15(塩道長浜)	"
K16(花染め)	"
K17(エンヤレコレ)	1987年10月6日

## 補助資料

K13(口説)	1987年9月7日公民館広場における盆の八月踊り実況録音より採譜
K14(今の風雲)	1988年8月29日有川全功氏宅におけるウタモエの会での演唱録音より採譜
K18(ホコラシヤ)	1982年12月26日「寿し源」における老人会婦人方によるホコラシヤクワ奏演録音より採譜(東京芸術大学民族音楽ゼミナール調査資料)

191  
2 <祝つけ>

実音は短7度下

♩ = 70  $\frac{2}{4}$

こんとの --- ち --- に --- わ --- にハレ  
 お --- づ --- かり --- いて --- お --- せ --- いろ --- い  
 ハレ --- にか --- ら --- ぬ --- せ --- き ---  
 - い --- や --- ハレ --- お --- ぶ --- ば --- ず --- かり ---  
 ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ ---  
 ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ ---  
 ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ --- ぶ ---

K 1 (あらしやげ)

実音は1オクターブと完全5度下

♩=142  $\frac{2}{4}$

あらしやげ にしりーにわうたあらしりー  
てハレたげにあらしげエてーよさりーはし  
らーヨンドハレたげにあーらしりーたげにあら  
しやげーてーよ<sup>var.</sup>さりーはしーら ※複数回の演唱を合成した。

3 <まけまけ>

実音は2オクターブと長2度下

♩=96  $\frac{2}{4}$

いまのおどりはおどこーがそらたソレおーと  
りーなーらわばハレやま<sup>(V)</sup>いまなーらおやわうやわうや<sup>(V)</sup>  
\*(わーたばハレいま)  
ハ)レエレー ※本来は( )の本業にうたわれる。



4 <サンバノフェ>

実音はオクターブと短3度下

$\text{♩} = 104 \frac{3}{4}$

1. いまの おど り - は おど り こ が - - そ う た おど り  
 - な ら - わ ば - ソ ョ ハ ヴ い ま - - な ら お - ソ レ サ ン バ ノ フ ェ

5 <あじそえ>

実音は2オクターブと短3度下

$\text{♩} = 88 \frac{2}{4}$

1. あ じ - そ - え - - む - ち ふ ね や よ ソ レ と な - の - - -  
 2. → て ん ぶ た つ め ち ゃ つ め い つ つ ハ ヴ お ち - な - な つ  
 の り じ ゃ ら ば よ や い ね ら や い ね ら や い ね ら ね - ら  
 や つ - こ の つ と  
 ね ら ね ら ね ら ね ら

6 <うらとみ>

実音はオクターブと短2度下

$\text{♩} = 90 \frac{2}{4}$

1. う ら と み や う ら と - み - - も ど し - - め ち や - う ら と - み  
 1R. う ら と み も ど し ち - や - - し ま - - め マ - タ ふ れ - も  
 - も ど し - - め ち や - う ら と - み -  
 ん し - ま - - め マ - タ ふ れ - ら -

7 <とんぱら>

実音はオクターブと長2度下

♩=112  $\frac{2}{4}$

とんぱら - の - - いしや ヨ      じすもぶ - す - - おぶす

ヨ ハレ - うりか は - な - - さきば ヨ      おたれな - - り

り ハレ り

9 <しゅんかねくわ>

実音は短7度下

♩=60  $\frac{2}{4}$

1. しゅんかねくわのふしや - わがな - うりかば - さむしち いもれ - つりておほ  
2. あま せり の めはち - - せくしせりの ら なる - いじてもれうちを せりしよ

ろ } サ - サ - シカネク さむしち - いもれ - つりておほ      ろ } サ - サ - シカネク

10 <ねんごろじゅ>

実音はオクターブと短7度下

♩=60  $\frac{2}{4}$

さげくわすれた - - が - ソレ ねんごろじゅが やど - に      たばこ - のもと

- き - お - - - め じゅ - が - い のもと - - き - ソレ のもと き      たばこ

たばこ - のもと - - き - お - - - め じゅ - が - い ハラシテ

ニワ イトナギ  
1 1 <庭の糸柳>

実音はオクターブと短7度下

♩=76  $\frac{3}{4}$

に - わ の い - とや な -- き -- か - じに さ - そわれ - て -  
 か じ - に - さそわれ てんヨ - な - び - く - し - の - き -  
 ヨ さそわ れ - て さ - そわれ - て - ヨ サワサ - ショテヲヨ ムエ  
 シヲヲヨ ムエ

ヒト ヨメノ  
1 2 <人が嫁女>

実音は2オクターブと短2度下

♩=90  $\frac{2}{4}$

ひとがよめ -- (ヒト) -- じ - や か れ せ の は な - よ -  
 - い - す か ろ ぶ か ろ に - - おとろ - しや  
 すかろ ぶ か ろ -- に - - - すかろ ぶか  
 ろ に - - おとろ - しや

# 13 <うりやげどり>

実音は2オクターブ下

♩=102  $\frac{2}{4}$

1. うりやげどり - り すれ - - - ば } ハレ { なな は な ア  
 IR. ぬかやま - む ぶげ - - - や } なめ に ※  
 2. うてはう - ち ぶし - - - や } よな り し ヲ  
 2R. よればよ - り ぶし - - - や } かな が マ

ハ - - - み り - - - り } ハレ { なな は な ア け - - - お じ - - -  
 る - - - ち じ - - - せ - } よな り し ヲ ウ る - - - ち じ - - -  
 げ - - - お そ - - - ぼ } かな が マ ア げ - - - お そ - - -

※ 1R. 演唱にて中断。

# 14 <赤木名観音堂>

実音は2オクターブ下

♩=104  $\frac{2}{4}$

あかまな かのんど - - - や - - - いふ - - - ぶか - -  
 - ち - - - なお - - - ろ - - - な - お - - - ろ - -  
 - なお - - - ろ オにな - - - な - - - おと - -  
 - ば か - - - り ハラ レ ン シ ョ ン シ ョ - レ  
 (7) (7)

※ 後半は、複製の演唱を合成した。

15 <やんごらぬいぶ>

実音は2オクターブ下

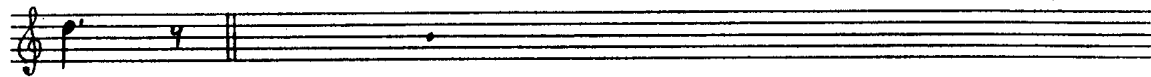
♩=88  $\frac{2}{4}$



やんご らのーいぶー や いちかりて っり



ヨーハレ やんぬーおわ うべー や さいしつりー



り

16 <喜界や湾どまり>

実音はオクターブと完全4度下

♩=75  $\frac{2}{4}$



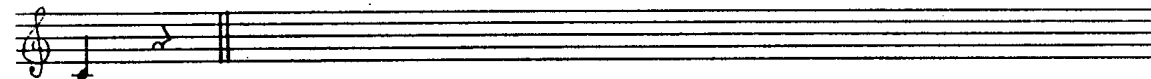
いぢや わーんどうまーり おおくーおーんりー



り ハレ うーらくがーんりーりー りる やーまだえーだー



な ヤヨドーハレ うーらくーおーんりーりーー ハレ な ヤヨ



ト

17 <ヒヤルガヨイソレ> 実音は2オクターブ下

♩ = 112  $\frac{2}{4}$  はやしの部分のみを演唱

ホロヤヌ ヤヌ ヒヤルガヨイソレ ツェンヨー ヤツェン  
 ヨー シタリガ ツェンツェン

18 <港川水> 実音は2オクターブと短2度下

♩ = 94  $\frac{3}{4}$   $\frac{2}{4}$   $\frac{3}{4}$

1. おなと - か - - わ - - - あい - - ぶ - ヤ - ン - ヨ - う - し  
 /R. わぬや - か - - な - - - い - - き - て - ン - ヨ - な - し  
 /RR. わぬや - か - - な - - - い - - き - て - ン - ヨ - な - し

2.  $\frac{2}{4}$   
 - い - - - き - て - も - じ - ろ - - - に - -  
 - じ - - - マ - タ - も - じ - ろ - - - い - -  
 - じ - - - マ - タ - も - じ - ろ - - - い - -

3.  $\frac{3}{4}$   
 ち - い - ち - い - ち - い - ち - い -

※ この部分は、別演唱から合成した。

19 <ヤサレノトイトイ>

実音はオクターブと短3度下

♩=78  $\frac{2}{4}$

1. (みなと か わみ) ず やつれーうしー いーき ても どーろ ハレ  
 1R. わぬや の ない き てもれーなしー ーどーま ぐも どーろ ハレ

うーしー いーき ても どーろ  
 なーしー ーどーま ぐも どーろ

※ 1. の冒頭 ( ) 部分は音程不安定.

20 <牛やだり>

実音はオクターブと完全4度下

♩=86  $\frac{2}{4}$

うしやーだーりーくー しーやぬが やどーうくかー  
 なーぬ ひやまが へ ハレぬが やどーくかー なーだぬ  
 きーやあーうめ

21 <あがんむら>

実音はオクターブ下

♩=68  $\frac{2}{4}$

あがんむら あかーくーゆきむらーぬーはぐき  
 ヨ ハレーきやーぬめに あてーどーゆばしーなだ  
 な

2 2 < 曲りよ高ちじ >

実音はオクターブと長3度下

♩ = 74  $\frac{2}{4}$

1 まかち に ち ちん く ぼとぼし }  
 IR クルか あかりん と き し のて マ 7 いもれ }

ヤハレ ちん く ぼとぼし  
 ヤハレ し のて マ 7 いもれ

2 5 < いそ踊り >

実音はオクターブと長7度下

♩ = 118  $\frac{2}{4}$

いまのおどり --- は ハレ おどり --- こ オガそ ---  
 た-I ハレ おどり な --- らめ --- アハレい --- まな --- なら  
 お --- ヨ --- ド ヤレ お --- どり --- な --- らめ --- は ハレ ド

K 6 (うんにやだる)

実音はオクターブと長6度下

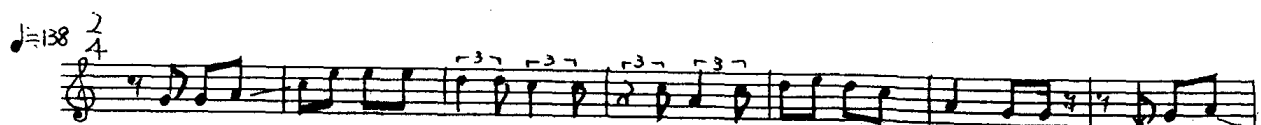
♩ = 67  $\frac{2}{4}$

うんにやだる ふりむんコレち く ぬく ぬば --- はんにやだる --- (ハ)あかきな  
 か --- ち とん と じ --- なりやほりくらて --- ト --- ヤヌ  
 2 (エ イ)  
 ヤ --- レ

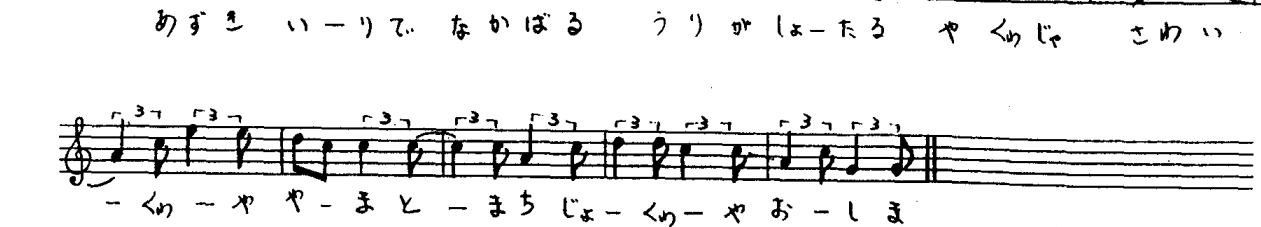


K 8 (なかばるしょーたや) 実音はオクターブと短7度下

♩=138  $\frac{2}{4}$



あずま いーりで なかばる うりかほーたる やくめじ さめい



-くめ-や や-ま と-まち じょ-くめ-やお-しま

シメミチガハマ  
K 15 (塩道長浜) 実音は2オクターブ下

♩=83  $\frac{2}{4}$



1. あち なかほ まーに ハレわらべ ぬ なーきし たーさ わら  
IR. うりか たるち ヲーリ ハレのまま ーつ あず はだり ーい りさ



べーぬ なーきし たーさ ー



まーつ あず はだり ーい ー

ハナヅ  
K 16 (花染め) 実音は2オクターブと短2度下

♩=98  $\frac{2}{4}$



1 はなぞめ ーに ふれ ーてーハレわら べとウ  
IR はなぬさ おオ れら ーぼーハレのこ とマ ア



じーか めん ーてーハレわら べとウ じーか めん ー  
ア ーお も ーえーハレのこ とマ ア ア ーお も ー



て  
え

K 1 7 (エンヤレコレ)

実音はオクターブと長3度下

♩=136  $\frac{2}{4}$

1. いまの- } エンヤレコレ { いまのおどりはおどりに <sup>ハレ</sup>か  
 IR. おど-り- } { おどりならわはいまな <sup>ラ</sup>ら

IR. お 不

そ - - 3 た 木 } キソソニ

<sup>リトキ</sup>  
K 1 3 (口説)

実音は半音下

大鼓  $\sim$  *simile*

女  $\frac{2}{4}$  ♩=160 (にわの) (いし) が き か ね な り り は ま の し ろ す な

ま じ め な り り お さ の く ろ し お さ け な り

リ 踊り終了

<庭ね糸柳> → (どんどん節) → (口説) という連結において  
 うたわせたもの

イマ 新けえ  
K 1 4 (今の風雲)

※ 三味線伴奏は略す。  
※ 1R. は2回繰返して歌われる。

♩=60

男

1. い --- ま ぬ --- か --- さ く --- も  
1R. わ --- し ま --- と --- の じ --- さ

} ハイ

男

1. ス --- リ --- { む --- ら が --- う      う --- -- え --- に --- ハ レ た ---  
1R. う --- に し --- は      ア --- -- ら --- に --- ハ レ た ---

ハヤシ

男

1. ち --- り --- } ヨ --- イ ヨ イ ヨ イ ---  
1R. ち --- り --- }

1. R. ス ラ ヨ --- イ ト --- コ --- セ  
2. (ウ) (略) ※ 1R. 2回目のここから

K 1 8 (ホコラシヤ)

実音は長七度下

拍子 2/4 X 2 | X 2 | ~ simile

♩=115

歌

1. --- } ほ こ ら し ゃ --- } ヤ --- レ   5 --- イ { い --- ふ --- よ ---  
1R. い --- つ --- も   き の じ と に --- }   } あ --- ら --- よ ---

ハヤシ  
相手側

1. い --- つ --- よ --- り --- -- -- も --- ま --- さ --- り

歌

1. り      い --- つ --- よ --- り --- -- -- も --- ま --- さ --- り  
1R. し      あ --- ら --- し --- ま --- -- -- 9 --- た --- ほ --- り

## 資料3付録 演唱歌詞一覧

- ・曲毎に、久万田1990資料6における該当歌詞番号、歌詞、対訳の順に示した。ただし表記は実際に演唱された形に従ったので、久万田1990資料6とは異なったものがある。
- ・その他、資料2付録演唱歌詞一覧の表記に準じる。

- ヨリ
- 2 <祝つけ>
- 007 <sup>トチコ</sup> こん殿地庭に <sup>ヨレ</sup> 祝つけておせろ <sup>特</sup> これからめ先や <sup>ヨレ</sup> お祝ばかり  
(この御屋敷の庭に祝付けをして差し上げましょう これから先はお祝いばかりです)
- K 1 (あらしゃげ)
- 441 <sup>ワカ</sup> あらしゃげにしゃげに <sup>ガ</sup> 吾歌あらしゃげて <sup>ガ</sup> 互にあらしゃげてい <sup>ヨサ</sup> よさりしょしら  
(どンドン盛り上げて、私の歌を盛り上げて、互いに盛り上げて、夜通しみんなで楽しもう)
- 3 <まけまけ>
- 043 <sup>イハ</sup> 今の踊りは <sup>ハコ</sup> 踊り子がそろた <sup>ハナ</sup> 踊り習わば <sup>イハ</sup> 今習お
- 4 <サンバノフェ>
- 043 <sup>イハ</sup> 今の踊りは <sup>ハコ</sup> 踊り子がそろた <sup>ハナ</sup> 踊り習わば <sup>イハ</sup> 今習お
- 5 <あじそえ>
- 065 <sup>フナ</sup> あじそえが <sup>フナ</sup> み船やよ <sup>ハナノ</sup> 波中乗りじゃしゅらばよ  
(あじそえのお船が、海上に乗り出せば)
- 075 <sup>ナ</sup> 一つい <sup>ミ</sup> 二つい <sup>ヨ</sup> 三つい <sup>イ</sup> 四つい <sup>ム</sup> 五つい <sup>ム</sup> 六つい <sup>ナ</sup> 七つい <sup>ハ</sup> 八つい <sup>ク</sup> 九つい <sup>ト</sup> 十  
(歌意 略)
- 6 <うらとみ>
- 076 <sup>ウラ</sup> 浦富や浦富 <sup>ミ</sup> 戻しゅめや浦富 <sup>ウラミ</sup> 浦富戻すん人や <sup>マ</sup> 島ぬふれもん  
(浦富よ浦富、戻さないか浦富を、いや浦富に帰れと言うのは、島の馬鹿者である)
- 8 <とんばら>
- 102 <sup>イ</sup> トンバラの石や <sup>ミ</sup> じすきぶす三ぶす <sup>ハナ</sup> うりが花咲きば <sup>シ</sup> 乱れなりゅり  
(トンバラの石(の上に)、すすきが三根生えている、その花が咲けば、(風に揺れて) 乱れている)
- 9 <しゅんかねくわ>
- 109 <sup>フナ</sup> しゅんかねくわが節や <sup>ワ</sup> 吾がくなしゅしゃが <sup>サシ</sup> 三味線もちいもれ <sup>ツ</sup> ついておしゅろ  
(しゅんかねの節は、私がこなしておくから、三味線を持っていらっしゅい、歌をつけて上げましょう)

- 110 あまだ下がりアの魚かまちイ 家ウこし下がりエの南瓜オ いカじてもれキえ老人クきケゃ 茶コじょけクしゃケよろコ  
(あま内に下げた魚の頭、家の裏庭にできた南瓜、集まっておいで老人達、お茶受け(でご馳走)しよう)

## 1 0 &lt;ねんごろじゅ&gt;

- 130 さげどぐア忘れたカ ねんごろじゅキが宿クにケ たばこのむ時コ  
(提げ徳利を忘れた、懇ろの女(愛人)の宿に、煙草をのむ時、思いだした)

## 1 1 &lt;庭の糸柳&gt;

- 136 庭ニの糸柳イ 風カに誘キわれてク 風コに誘ケられてク なびくしのきコ  
(庭の糸柳は、風に誘われて 風の意のままに、なびく辛さよ)

## 1 2 &lt;人が嫁女&gt;

- 142 人ヒが嫁女メや 枯木カの花ハよキ すがろコすがろクにケ おとろしコやク  
(人の嫁というのは、枯木の花だ、すがろうにも、恐ろしい)

## 1 3 &lt;うりゃげどり&gt;

- 147 うりゃウげどりリすればリ 七シ離リれミりリゃリ めメがガやヤきキむムちチゃチげゲやヤ 吾ワ目メにニ見ミらラぬヌ  
(浦海のように風いだら、七離れ(七島)が見えるが、どうしてか可愛い恋人は、私の目に見えない)  
138 打ウてテばバ打チちチ欲キしゃヤ やヤなりニしシゅユるル鼓カ 寄ヨればレバ寄リりリ欲キしゃヤ 加カ那ナがガおオそソばバ  
(打つほどに打ちたくなるのは、よく鳴る鼓、寄るほどに寄りたくなるのは、加那(恋人)のそばだ)

## 1 4 &lt;赤木名鑑音堂&gt;

- 156 赤木アカ名ナ観カン音オン堂ドウやヤ 伊津部イツかカちチなナおオろロ なおナおオろロなナおオろロにニ なナ音オンばバかりカリ  
(赤木名観音堂は、伊津部へ移ろうという、 移ろう移ろうというのに、噂ばかりで移らない)

## 1 5 &lt;やんごらぬいぶ&gt;

- 163 屋仁川ヤのノいイぶブやヤ いイどドうウかカけケてテつツりリゃリ 屋仁ヤぬヌ女メ童ドウやヤ さサでデしシつツりリゃリ  
(屋仁川のいぶ(ハゼの一種)は、餌を掛けて釣るが、屋仁の娘は、さで(魚をすくう道具)で釣る)

## 1 6 &lt;喜界や湾どまり&gt;

- 172 喜界キやヤ湾ワン泊パクりリ 水ミがガれレとトりリゃリ 潮ウがガれレとトりリゃリ 山田ヤマえエだダなナ  
(喜界島の湾泊は、水を焦がれ取る、潮を焦がれるのは、山田えだな(不明)である)

1 7 <ヒヤルガヨイソレ>  
(演唱ハヤシ部分のみ)

ミトヨリミズ  
1 8 <港川水>

180 港川水や うしゅいきゃてい戻ろ 吾ぬや加那いきゃて 泣しどろ戻ろ  
(港川水は、潮が行って戻る、私は恋人が行ってしまい、泣いて戻る)

1 9 <ヤサレノトイトイ>

180 港川水や うしゅいきゃてい戻ろ 吾のや加那いきゃて 泣しどろ戻ろ

ウリ  
2 0 <牛やだり>

185 牛やだりくしゃや ぬがやどろくかなぬ ぬがやどろくかなぬ 今日やあらめ  
(意味 不明)

2 1 <あがんむら>

190 あがんむらあかくわ ゆきむらぬはぐき 氣病んめにあてど 呼ばしなだな  
(あがんむらのあかくわは、雪のような歯をしている、氣病み(恋患い)になったら、呼ばしてみようか)

マカ リカ  
2 2 <曲りょ高ちじ>

197 曲がりょ高ちじに ちょうちんぐわば灯し うれが明かりゅん時 忍でいもれ  
(曲がりょ高辻に、提灯を灯すから、その明りがついている時、忍んで来て下さい)

トド  
2 5 <いそ踊り>

043 今の踊りは 踊り子がそろた 踊り習わば 今習お

K 6 (うんにゃだる)

ad009 うんにゃだる痴者 乳くれ子ばはん投げて 赤木名かち 殿刀自なりがはりくらて  
(うんにゃだるは馬鹿者だ、乳飲み子を振り捨てて、赤木名まで、役人の島妻になりに行きやがって!)

K 8 (なかばるしょーたや)

ad010 なかばるしょーたや あずきいりていなかばる うりがしょーたるやっくわじや  
さわい子や大和 まちじょ子や大島 (歌意 不明)

シュミチナガハマ  
K 1 5 (塩道長浜)

442 塩道長浜に 童ぬ泣きしゅたさ うりが誰ちゆり けさまつ汗肌ゆい  
(喜界の塩道長浜に童が泣いている、あれは誰か、けさまつの汗肌ゆえに(色香に惑い死んだわが子だ))

## ハナヅ

## K 1 6 (花染め)

- 443 花染めにふれて 童とっじかめえて 花ぬさおれらば 吾こと思え  
 (花の美しさに惚れて、若妻をめとった(貴方だが)、その若さの花がしおれたら、私を思いだして)

## K 1 7 (エンヤレコレ)

- 043 今の踊りは 踊り子がそろた 踊り習わば 今習お

## リドゥキ

## K 1 3 (口説)

- 庭の石垣金なりゅり 浜の白砂真米なりゅり 沖の黒潮酒なりゅり  
 (歌意 略)

## イマ ゴウリモ

## K 1 4 (今の風雲)

- 442 今ぬ風雲や 村が上に立ちゅり 吾ぬやとのじよさまや う西原立ちゅり  
 (今の風雲は、村の上に立ちこめ、私の夫は、西の方に旅立つ) → 『大観』P. 232

## K 1 8 (ホコラシャ)

- 004 今日ぬ誇らしや 何時よりもまさり 何時も今日のごとに あらちたばれ  
 (今日の日の誇らしさは、何時よりも勝っている、何時も今日のごとく、あらせて下さい)